

北杜市公共交通網形成計画に係る
基礎調査
報告書

平成30年3月

1. 調査概要	1
1-1. 調査目的	1
1-2. 本調査の構成と項目ごとに導出する課題	1
2. 地域の状況	2
2-1. 地勢	2
2-2. 土地利用の状況	3
2-3. 施設立地の状況	4
3. 人口と自動車保有の状況	5
3-1. 全市的な人口の推移	5
3-2. 人口分布と高齢化の状況	7
3-3. 人口増減の傾向	8
3-4. 通勤・通学先	9
3-5. 自動車の保有状況	10
4. 北杜市の公共交通環境	11
4-1. 北杜市の公共交通の変遷	11
4-2. 公共交通の状況	12
4-3. 交通空白の状況	13
4-4. サービスレベルの評価	14
5. 個別路線の運行状況と利用状況	18
5-1. 鉄道	18
5-2. 路線バス	20
5-3. タクシー	42
5-4. その他の路線	42
6. 総括	43

1. 調査概要

1-1. 調査目的

本調査は北杜市地域公共交通網形成計画策定に向け、北杜市にとって望ましい公共交通の在り方を検討するため、統計データや調査をもとに北杜市の特性や公共交通の課題を収集することを目的に実施した。

1-2. 本調査の構成と項目ごとに導出する課題

本調査は「地勢及び施設立地」「人口と移動動態」「交通」の3つの観点から行った。

「地勢及び施設立地」は、北杜市の地形、居住環境、生活圏を調べることで、北杜市の地勢的特性からみた公共交通の課題を導出した。

「人口と移動動態」は、北杜市の人口推移、高齢化率、人口増減率、移動実態、自動車保有台数を調べることで、北杜市の社会動態からみた公共交通の課題を導出した。

「交通」は、北杜市の公共交通一覧、交通空白、サービスレベル、公共交通の利用状況、公共交通の財務状況を調べることで、北杜市の公共交通の現状からみた公共交通の課題を導出した。

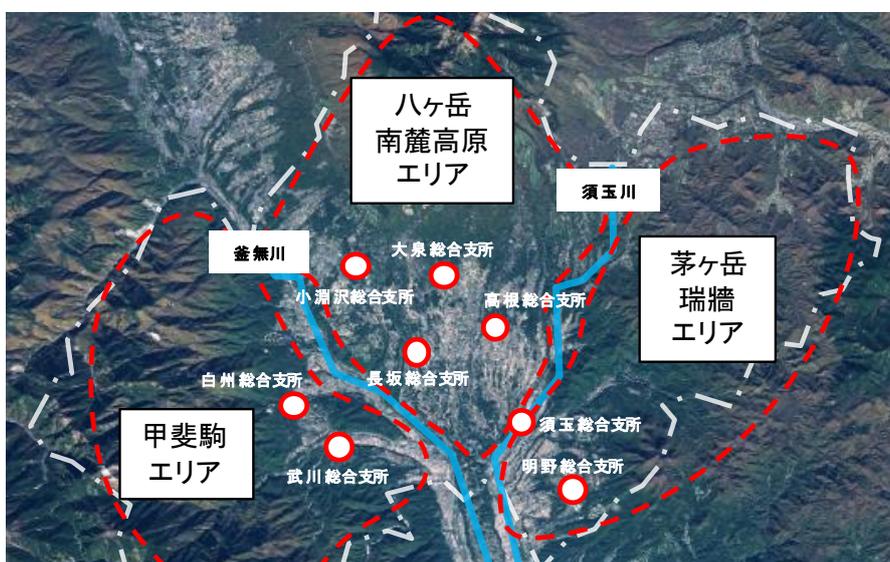
2. 地域の状況

2-1. 地勢

本市の中央部は、八ヶ岳連峰の麓に位置し、台地となっている。西部は甲斐駒ヶ岳等の南アルプス山岳地帯と釜無川による谷地、東部は茅ヶ岳・瑞牆山に連なる中山間地域と須玉川による谷地によって構成されている。

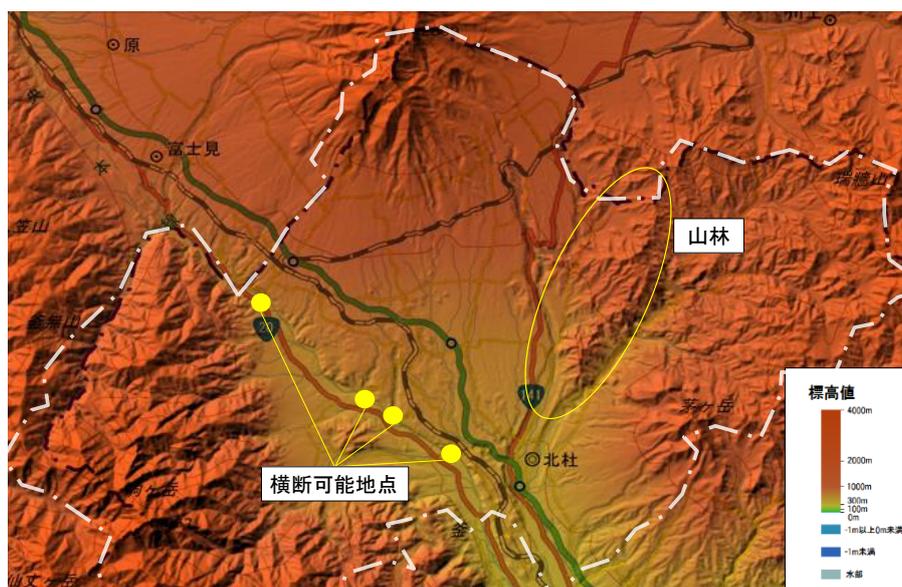
釜無川沿いは東西で高低差があり、横断できる場所が限られている。また、須玉川の東側は主に山林となっている。そのため、市民の生活圏は釜無川以西の甲斐駒エリア、釜無川以东・須玉川以西の八ヶ岳南麓高原エリア、須玉川以东の茅ヶ岳瑞牆エリアの大きく3つの地勢に分かれている。

図表 1 本市の鳥瞰図



出典：国土地理院 地理院地図

図表 2 本市の標高図

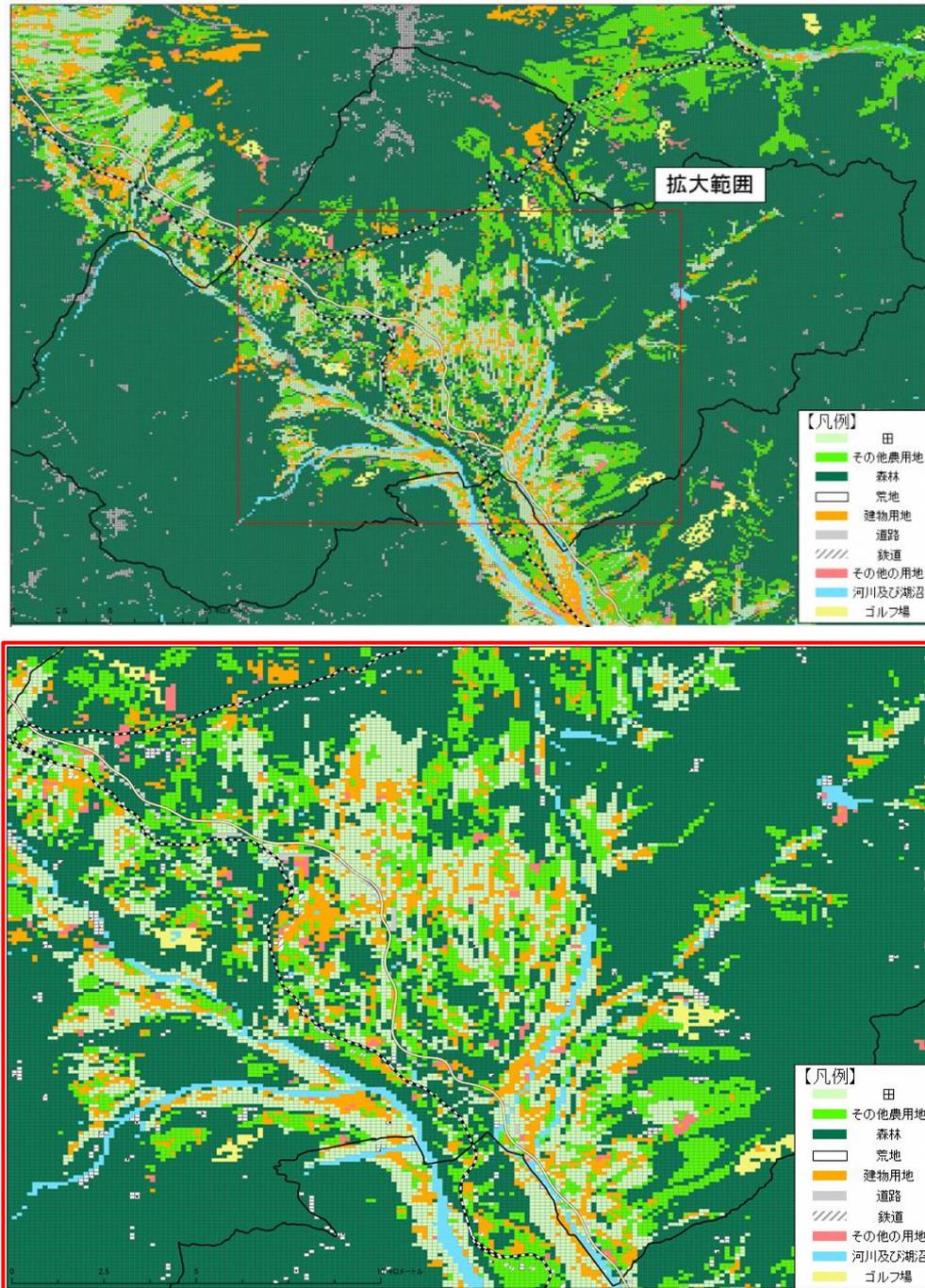


出典：国土地理院 色別標高図

2-2. 土地利用の状況

本市の土地利用をみると、茅ヶ岳瑞牆エリアと甲斐駒エリアは大半を山林が占めている。八ヶ岳南麓高原エリアも、JR 小海線より北側は山林が広がっている。建物用地（居住可能地域）は中央部や谷筋にみられ、小規模のものが広範囲に点在している状況となっている。

図表 3 本市の土地利用状況

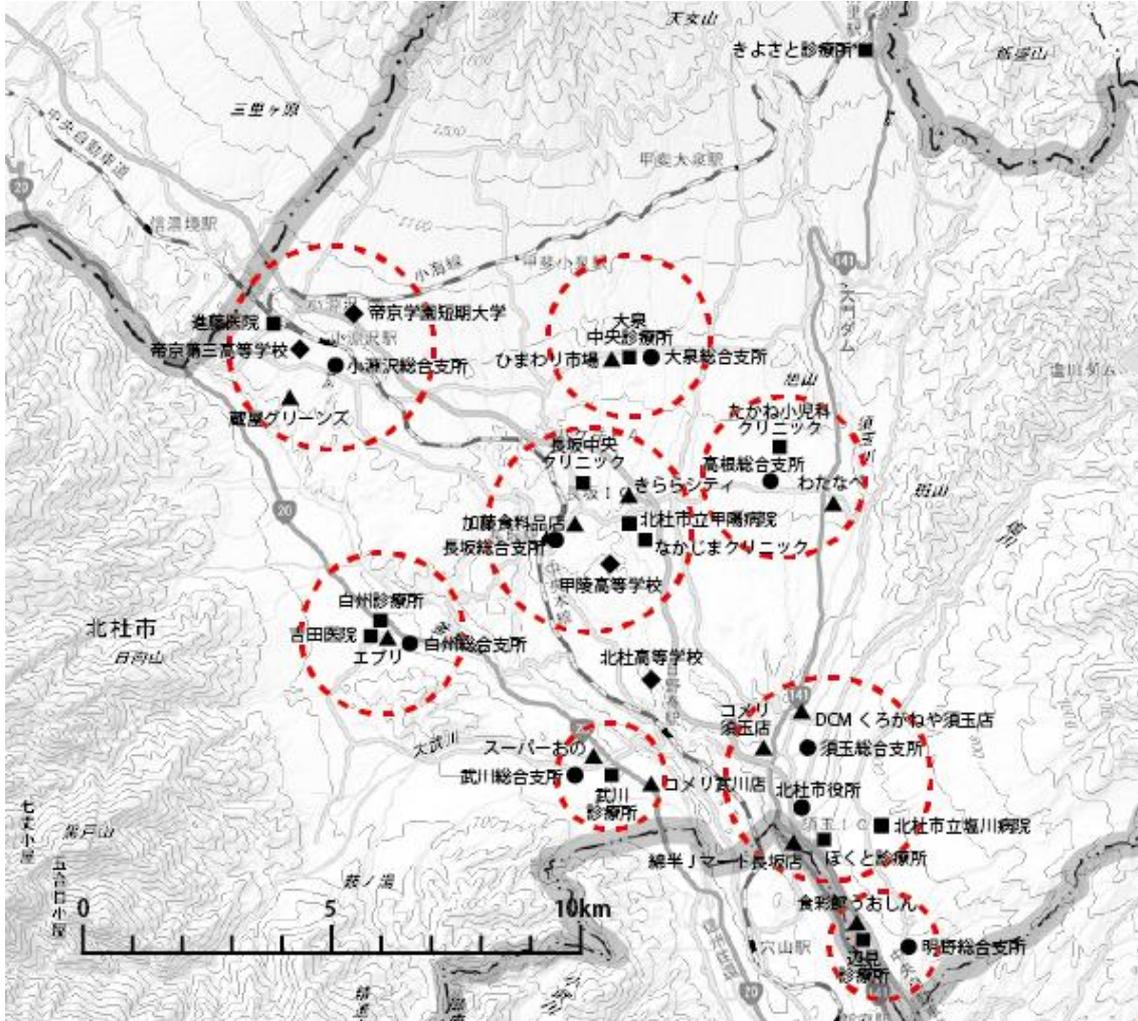


出典：国土地理院 土地利用細分メッシュデータ

2-3. 施設立地の状況

行政施設や病院・診療所、商業施設などは、8つの総合支所周辺に集積している傾向がみられ、多核的なまちが形成されている。

図表 4 本市の施設立地



出典：北杜市企画課

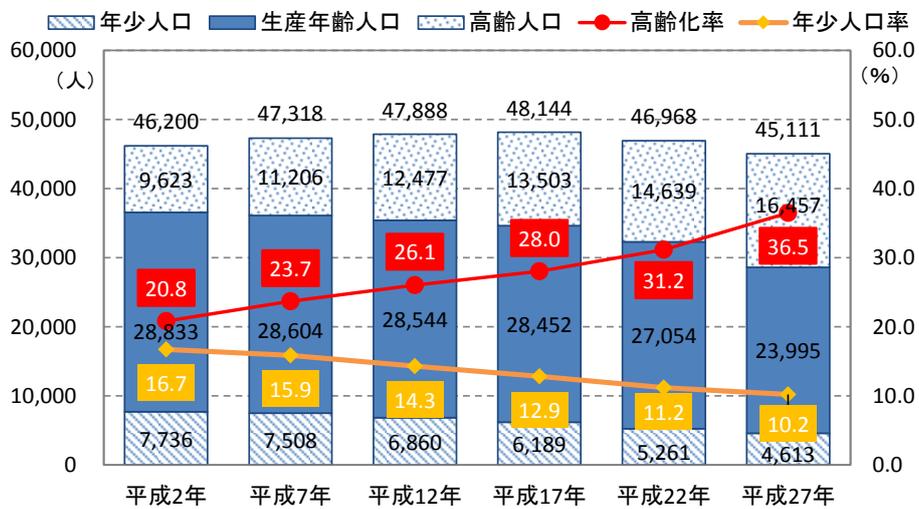
3. 人口と自動車保有の状況

3-1. 全市的な人口の推移

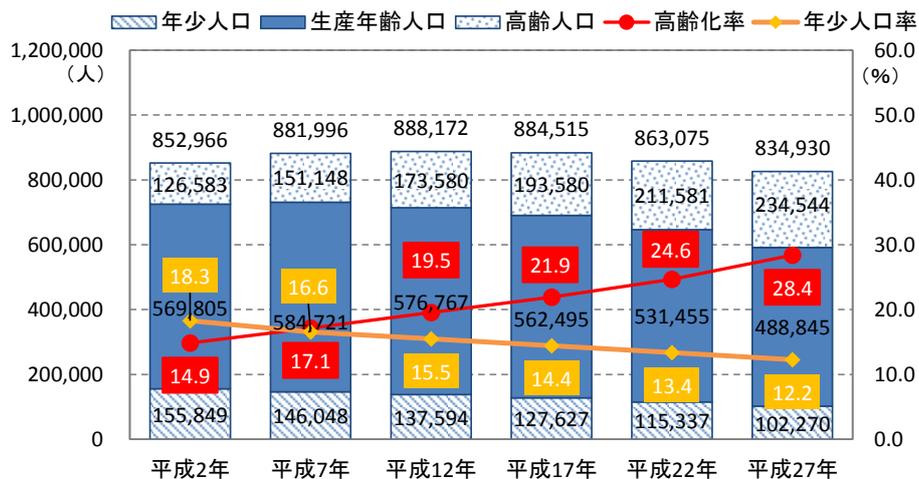
本市の人口は、平成17年の48,144人をピークに減少し続け、平成27年は45,111人になっている。年少人口のピークは平成2年の7,736人で、平成27年には4,613人まで減少している。一方で、高齢人口は平成2年では9,623人であったものの、平成27年には16,457人になっており、上昇し続けている。また、本市の高齢化率は36.5%であり、山梨県の高齢化率28.4%と比べて高くなっている。

総世帯数は増加し、1世帯当たりの世帯人数は減少しており、単身高齢世帯数の割合が増加傾向にある。

図表5 本市の人口推移(3区分)

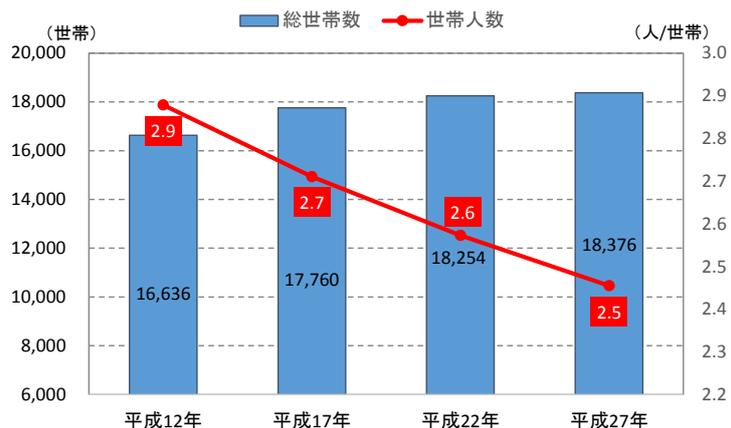


図表6 山梨県の人口推移(3区分)

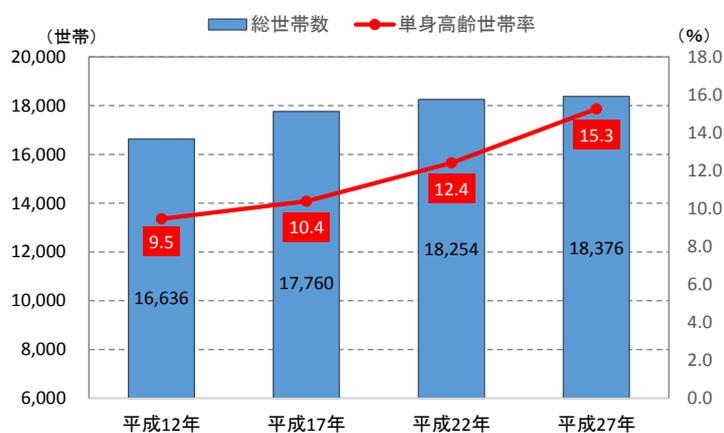


出典：国勢調査

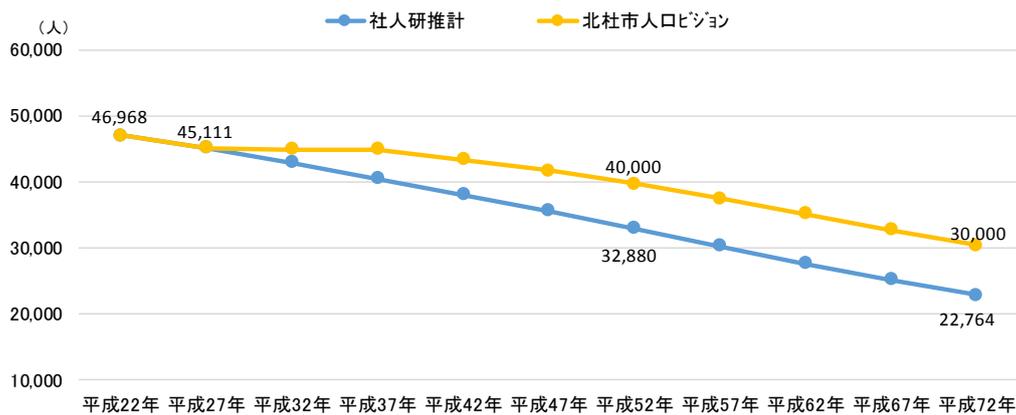
図表 7 総世帯数と世帯人数の推移



図表 8 総世帯数と単身高齢世帯数の推移



図表 9 将来人口の推計

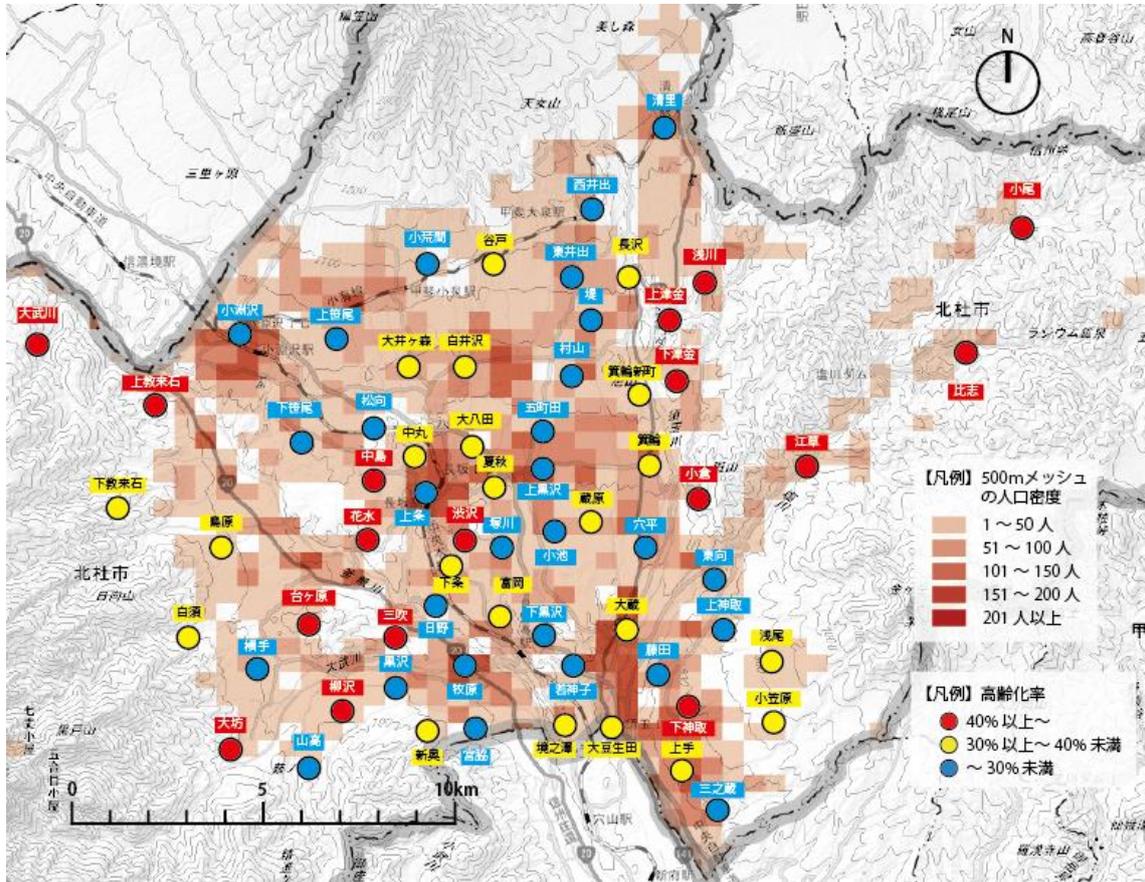


出典：北杜市人口ビジョン

3-2. 人口分布と高齢化の状況

甲斐駒エリア・茅ヶ岳瑞牆エリアは、人口が広く分布しており、高齢化が進んでいる。八ヶ岳南麓高原エリアは、総合支所周辺に人口が多く分布しており、それ以外では、薄く広く分布している。また、広範囲で高齢化が進んでいることがわかる。

図表 10 人口分布と高齢化率



出典：平成 27 年国勢調査

図表 11 地域別の人口

	茅ヶ岳瑞牆エリア		八ヶ岳南麓高原エリア				甲斐駒エリア		合計
	明野	須玉	高根	長坂	大泉	小淵沢	白州	武川	
人口 (人)	4,259	5,776	8,984	8,511	4,620	5,491	3,483	2,922	44,046
世帯数 (世帯)	1,660	2,420	3,655	3,652	1,989	2,360	1,461	1,179	18,376
世帯あたりの人口 (人/世帯)	2.6	2.4	2.5	2.3	2.3	2.3	2.4	2.5	2.4

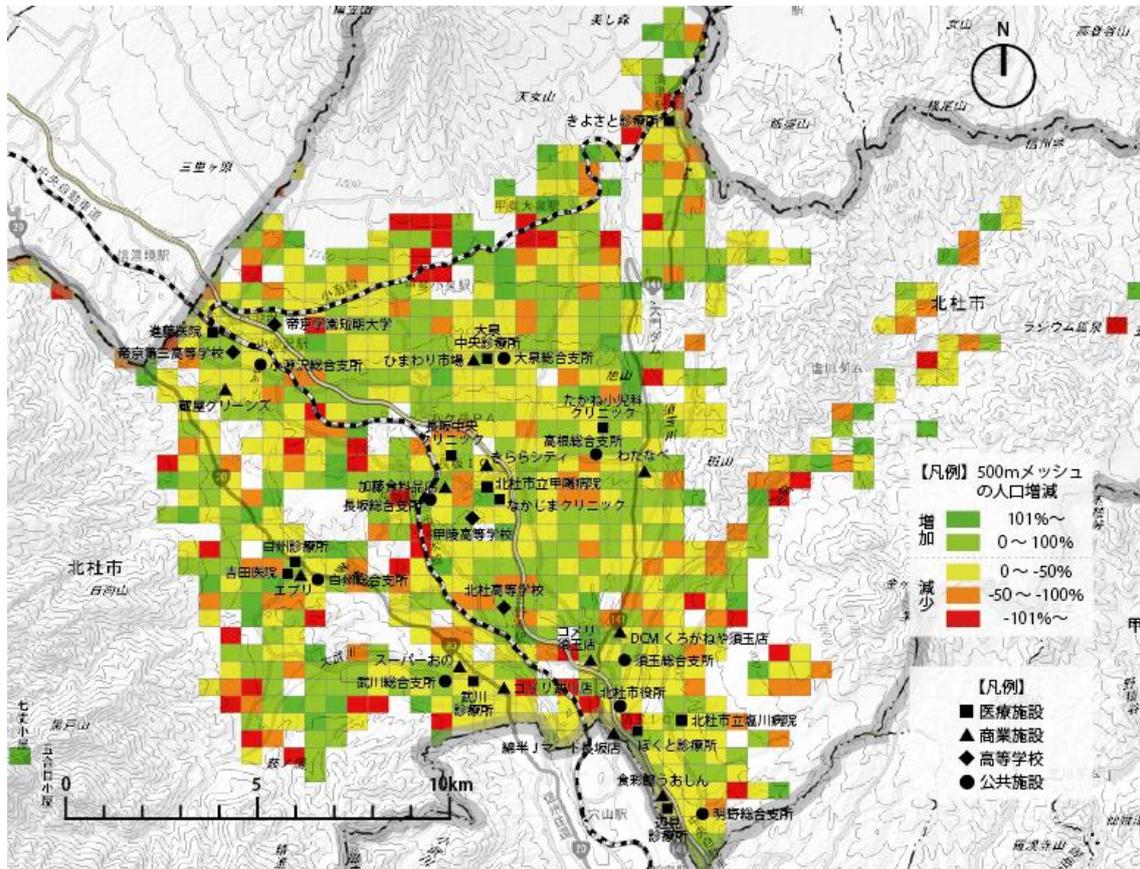
出典：平成 27 年国勢調査

3-3. 人口増減の傾向

平成22年から平成27年の人口増減をみると、人口増加しているエリアと人口減少しているエリアがモザイク状に点在している。

市役所や駅周辺の人口が必ずしも増加しているとはいえず、山間部の人口が必ずしも減少しているわけではないこともわかる。

図表 12 人口増減



出典：平成22・27年国勢調査

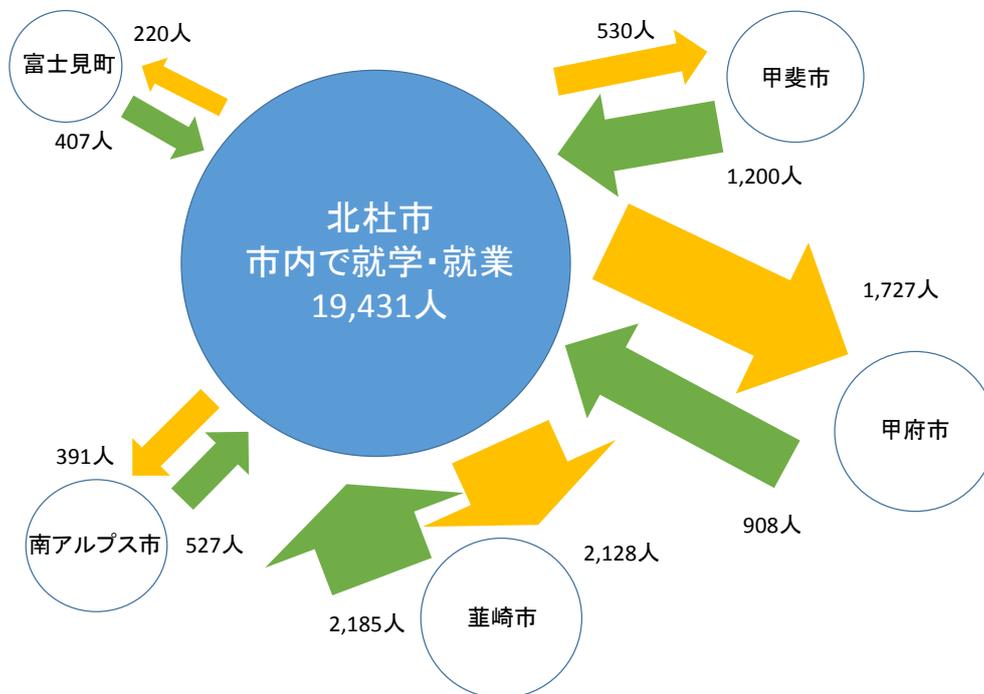
3-4. 通勤・通学先

平成 27 年の国勢調査では、市の就業・就学者のうち、74.7%が北杜市内に通っており、市外への就業・就学者は 25.3%である。市外への移動先としては、甲府市、韮崎市が多く、長野県側では富士見町との交流もみられる。

図表 13 北杜市の就業・就学者数

	人数(人)	割合(%)
市内への就業・就学者	19,431	74.7
市外への就業・就学者	6,596	25.3
北杜市に居住する就業・就学者	26,027	100.0

図表 14 北杜市と近隣市町間の移動実態

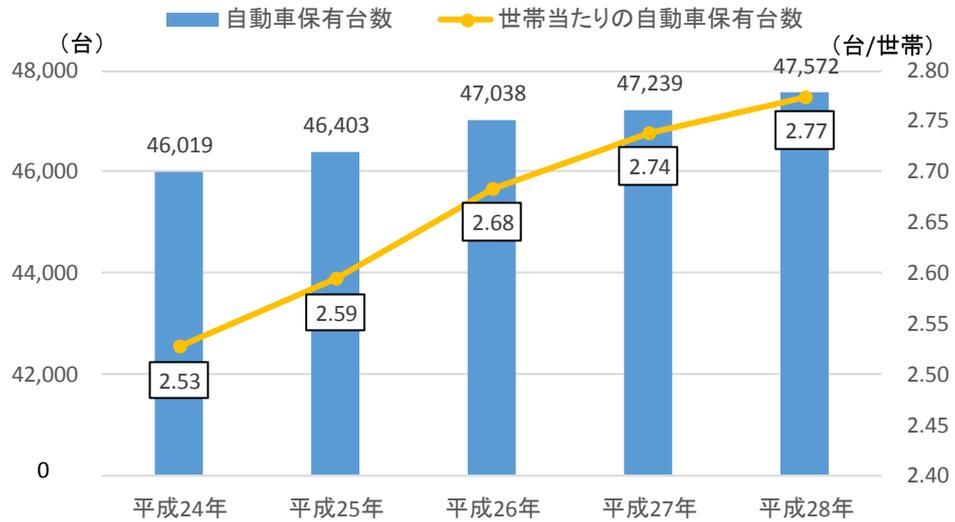


出典：平成 27 年国勢調査

3-5. 自動車の保有状況

本市の自動車保有台数は増加傾向にあり、平成28年は47,572台になっている。また、世帯当たりの自動車保有台数は平成24年の2.53から平成28年は2.77まで増加しており、自家用車を基本としたライフスタイルが浸透していると考えられる。

図表 15 自動車保有台数の推移



出典：山梨県 平成28年業務要覧
山梨県統計データバンク 市町村別推計人口・世帯数
※自動車保有台数には、軽自動車も含まれている

4. 北杜市の公共交通環境

4-1. 北杜市の公共交通の変遷

本市は平成16年度の合併以降、旧町村の路線バスを引き継ぎ、市民バスの運行を開始した。平成21年度からはデマンドバスの実証運行を行ったものの、本格運行への移行を見送り、平成25年度に実証運行を打ち切っている。

平成25年度からは、再び定時定路線型の市民バスを運行し、その後、平成28年度には一部路線で車両の小型化を行い、小淵沢・長坂線を北部巡回線として再編し、小泉・長坂線も路線を変更している。

また、市民バスに小・中学生が混乗していた路線については混乗を解消し、市民バスとスクールバスの役割を明確化している。

図表 16 本市の公共交通の変遷

年度	できごと
平成16年度	合併により北杜市誕生 旧町村の路線バスを引き継ぎ、市民バスとして運行開始
平成21年度	デマンドバスの実証運行を開始 [白州・武川エリア／八ヶ岳南麓エリア／明野・須玉エリア]
平成25年度	デマンドバスの実証運行期間終了 本格運行へは移行せず、定時定路線型の市民バスを再開 [明野巡回線／須玉巡回線／小淵沢巡回線／武川巡回線／塩川・黒森線]
平成28年度	路線再編を実施 ・小淵沢・長坂線の再編（北部巡回線）、小泉・長坂線の路線変更 ・市民バスとスクールバスとの役割を明確化（混乗を解消）

出典：北杜市企画課

4-2. 公共交通の状況

本市の公共交通は、民営では2本の鉄道と2本のバス、市営では14本の市民バスに加え、本市と葦崎市による共同運行路線1本が運行している。また、2つのエリアで観光乗合バスも運行されている。市民バスは、平日毎日運行している路線が10本、曜日限定で運行しているものが4本ある¹。

図表 17 路線図と公共交通の一覧



種別	地域	路線	事業主体	起点	終点	運行日
鉄道	-	JR中央本線	JR東日本	東京	塩尻	毎日
		JR小海線	JR東日本	小湊沢	小諸	毎日
市民バス	ハヶ岳南麓高原エリア	小泉・長坂線	北社市	泉郷	長坂	毎日
		清里・長坂線	北社市	清里駅前	長坂駅・北社高校	毎日
		大泉・長坂線	北社市	大開上	長坂駅・北社高校	毎日
		小湊巡回線	北社市	スパティオ小湊沢	(循環)	水土
		南部巡回線	北社市	北社市役所	(循環)	毎日
		北部巡回線	北社市	長坂駅	(循環)	毎日
		横手・日野春線	北社市	西村入口	北社高校	毎日
	甲斐駒エリア	大坊・白須・大武川線(通常便)	北社市	大坊上	大武川公民館	火木土
		大坊・白須・大武川線(北社高校便)	北社市	山口スクールバス停	北社高校	毎日
		葦崎・下教来石線	北社市・葦崎市	下教来石	葦崎営業所	毎日
	茅ヶ岳瑞穂エリア	武川巡回線	北社市	武川総合支所	(循環)	月水金
		津金・百観音線	北社市	大和公民館	北社市役所	毎日
		塩川・黒森線	北社市	塩川	黒森上	月・土
		須玉巡回線	北社市	富平公民館前	北社市役所	火金
明野巡回線		北社市	明野総合支所	(循環)	月木	
民間バス	路線バス	葦崎・浅尾・仁田平線	山交タウンコーチ	仁田平	葦崎営業所	毎日
		葦崎・増富温泉線	山交タウンコーチ	増富温泉	葦崎営業所	毎日
	観光乗合バス	まきは公園・大泉ルート	清里観光振興協会	清里バスセンター	(循環)	期間運行
		清里南部周遊ルート	清里観光振興協会	清里バスセンター	(循環)	期間運行
		清里北部周遊ルート	清里観光振興協会	清里バスセンター	(循環)	期間運行
		野辺山・清里北部周遊ルート	清里観光振興協会	清里バスセンター	(循環)	期間運行
茅ヶ岳瑞穂エリア	茅ヶ岳ルート	山梨峡北交通	JR葦崎駅	深田記念公園	期間運行	
	みずがきルート	山梨峡北交通	JR葦崎駅	みずがき山荘	期間運行	
その他のバス	病院バス	大泉・高根線	甲陽病院	甲陽病院	(循環)	
		小湊沢・長坂線	甲陽病院	甲陽病院	(循環)	
		高根・長坂線	甲陽病院	甲陽病院	(循環)	
		江草～明野線	塩川病院	塩川病院	(循環)	
茅ヶ岳瑞穂エリア	津金線	塩川病院	塩川病院	(循環)	月水金 火木土	

出典：北社市企画課

¹ 大坊・白須・大武川線は北社高校便が毎日運行しているため、毎日運行とした。

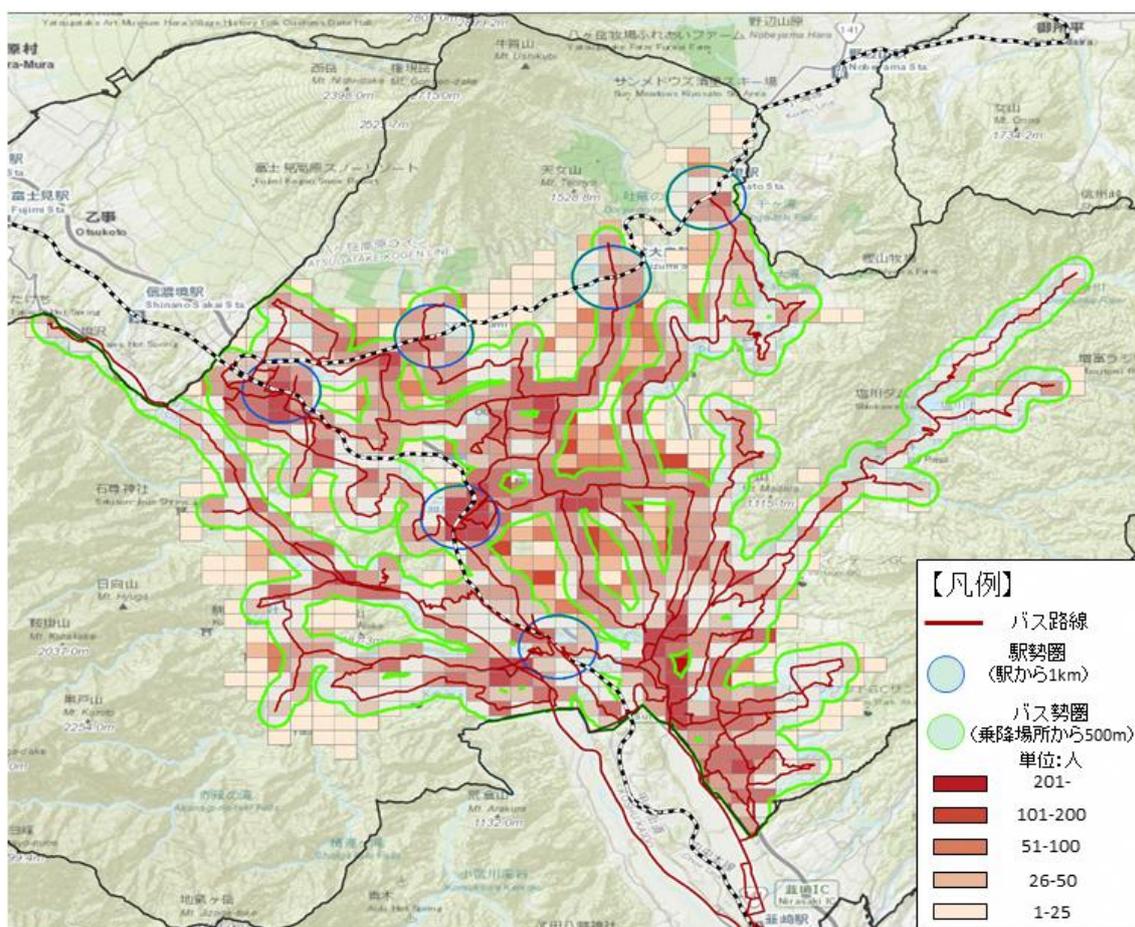
4-3. 交通空白の状況

市民バスは、全線でフリー乗降に対応しているため、交通空白地域は少ない状況である。

公共交通カバー圏内の人口が 41,584 人、交通空白地域内の人口は 5,883 人であり、公共交通の人口カバー圏率は 87.6%となっている。

エリアで見ると、茅ヶ岳瑞牆エリア・甲斐駒エリアは、ほとんどの居住地域がカバーされている。一方で、八ヶ岳南麓高原エリアは、人口密度が高い地域でも一部で交通空白が生じている。

図表 18 市内の交通空白地域



出典：平成 27 年国勢調査

人口	47,467人
カバー圏人口	41,584人
交通空白人口	5,883人
カバー圏率	87.6%

※カバー圏人口とは、鉄道駅から半径 1km、バス停から半径 500m を公共交通カバー圏とし、そこに住んでいる人口の全市人口に占める割合を公共交通カバー圏率とする。北杜市の場合、自由乗降できるため、市民バスの路線より 500m 以内の地域もカバー圏としている。

※交通空白地域とは、公共交通カバー圏から外れた地域。

※総人口は国勢調査の 500m メッシュから北杜市内の居住者を案分したものをを用いている。そのため、国勢調査の平成 27 年市内総人口とは乖離が生じている。

4-4. サービスレベルの評価

「サービスレベル」とは、生活上の移動の目的ごとに公共交通の利便性を評価したものである。ここでは、通勤・通学・通院・買物の4つの目的ごとにサービスレベルの測定を行う。

(1) 通勤

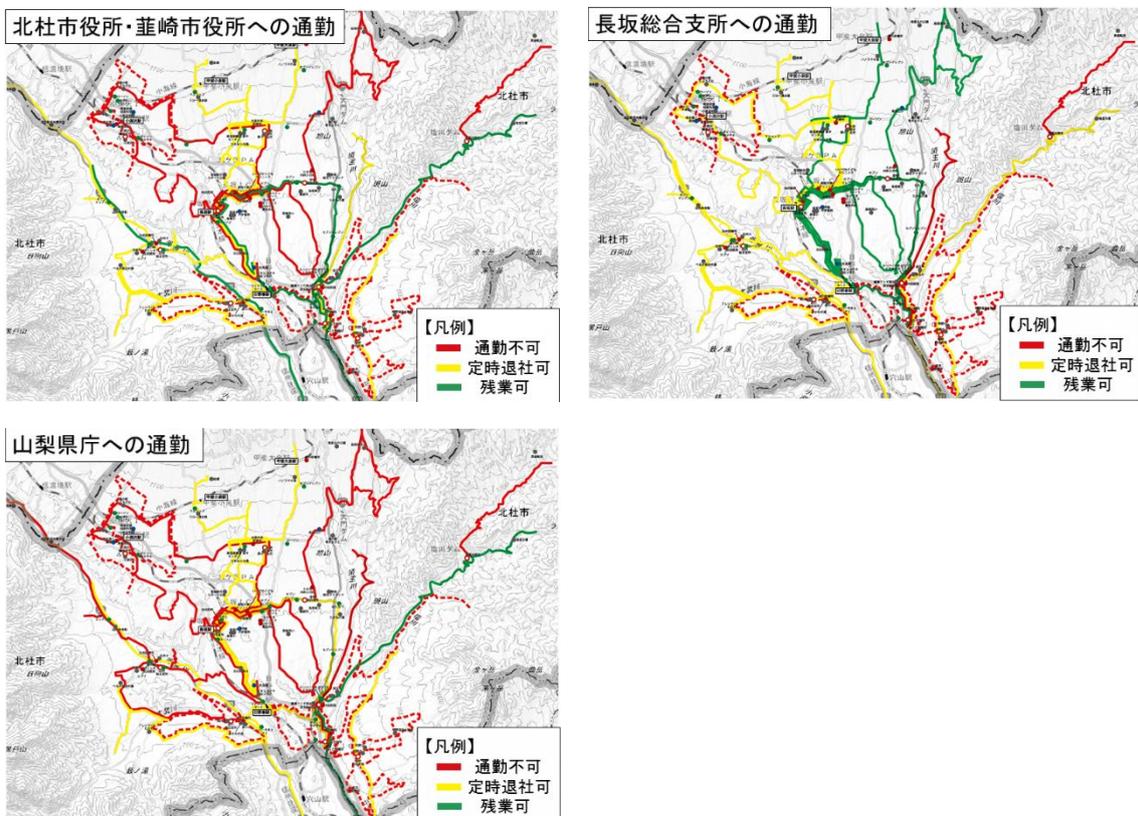
通勤のサービスレベルは、近隣への通勤（目的地を北杜市役所・各総合支所に設定。明野・須玉においては、韮崎市役所も含む）と甲府方面への通勤（目的地を山梨県庁に設定）に対して、A：残業可能、B：定時勤務可能、C：通勤不可で評価する。

図表 19 通勤の評価基準

サービスレベル	判定基準
A: 残業可能	8:30までに出勤可能。19:00以降に帰宅便あり。
B: 定時勤務可能	8:30までに出勤可能。17:30～19:00に帰宅便あり。
C: 通勤不可	8:30までの出勤ができない、または17:30以降の帰宅ができない、または平日毎日運行していない。

本市の通勤のサービスレベルをみると、曜日限定運行の路線を除いた多くの路線で通勤可能になっている。一方で、小淵沢・清里の路線は通勤に利用できなくなっている。

図表 20 通勤のサービスレベル



(2) 通学

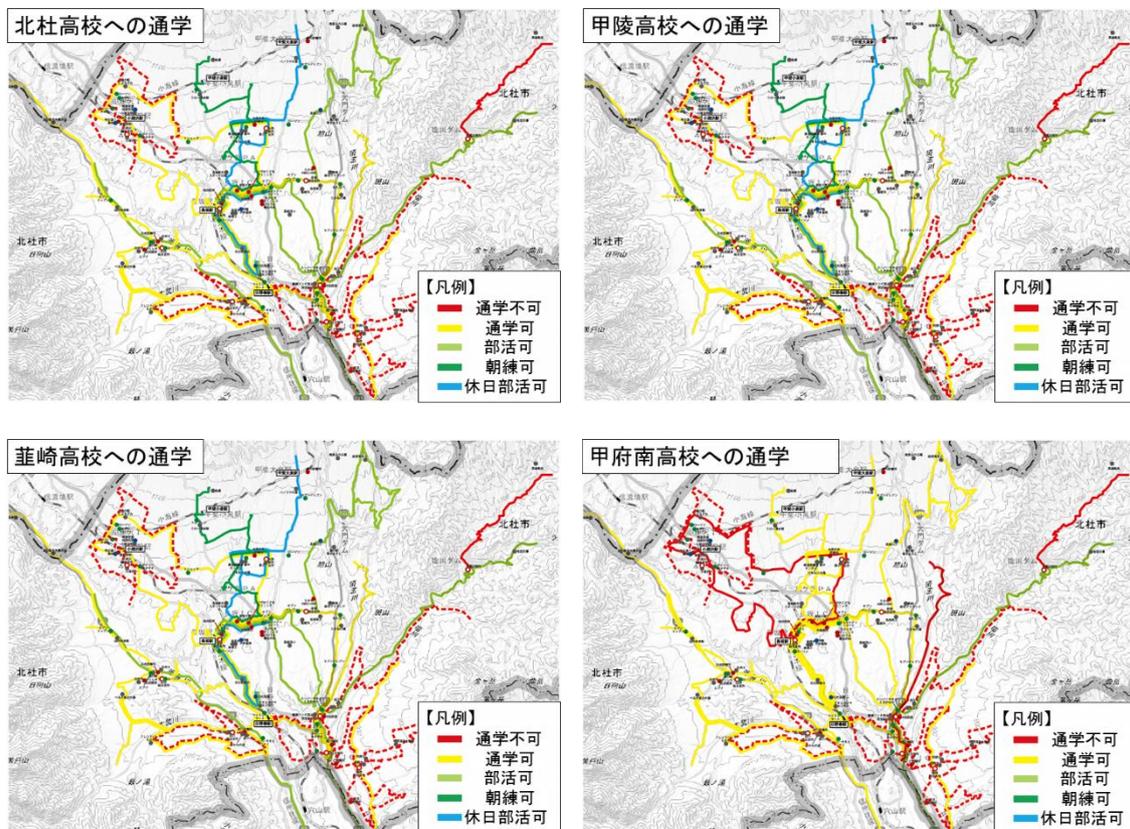
通学のサービスレベルは、最寄りの公立高校への通学（目的地を北杜高校・甲陵高校・韮崎高校に設定）と甲府方面の高校への通学（目的地を甲府南高校に設定）に対して、A：休日部活対応可能、B：朝練可能、C：放課後部活可能、D：通学可能、E：通学不可で評価する。なお、2 km 以内は徒歩移動が可能としている。

図表 21 通学の評価基準

サービスレベル	判定基準
A: 休日部活対応可能	7:00までに登校可能。平日18:50以降下校便あり。 土曜17:00以降下校便あり。
B: 朝練可能	7:00までに登校可能。18:50以降に下校便あり。
C: 放課後部活可能	8:20までに登校可能。18:50以降に下校便あり。
D: 通学可能	8:20までに登校可能。16:40以降に下校便あり。
E: 通学不可	8:20までに登校ができない、または16:40以降の下校ができない、または平日毎日運行していない。

本市の通学のサービスレベルをみると、曜日限定運行路線を除いた多くの路線で最寄りの公立高校への通学が可能になっている。一方で、塩川・黒森線では通学利用ができなくなっている。甲府南高校への通学に関しても、多くの路線で通学が可能になっているが、小淵沢巡回線や津金・百観音線では通学利用ができなくなっている。

図表 22 通学のサービスレベル



(3) 通院

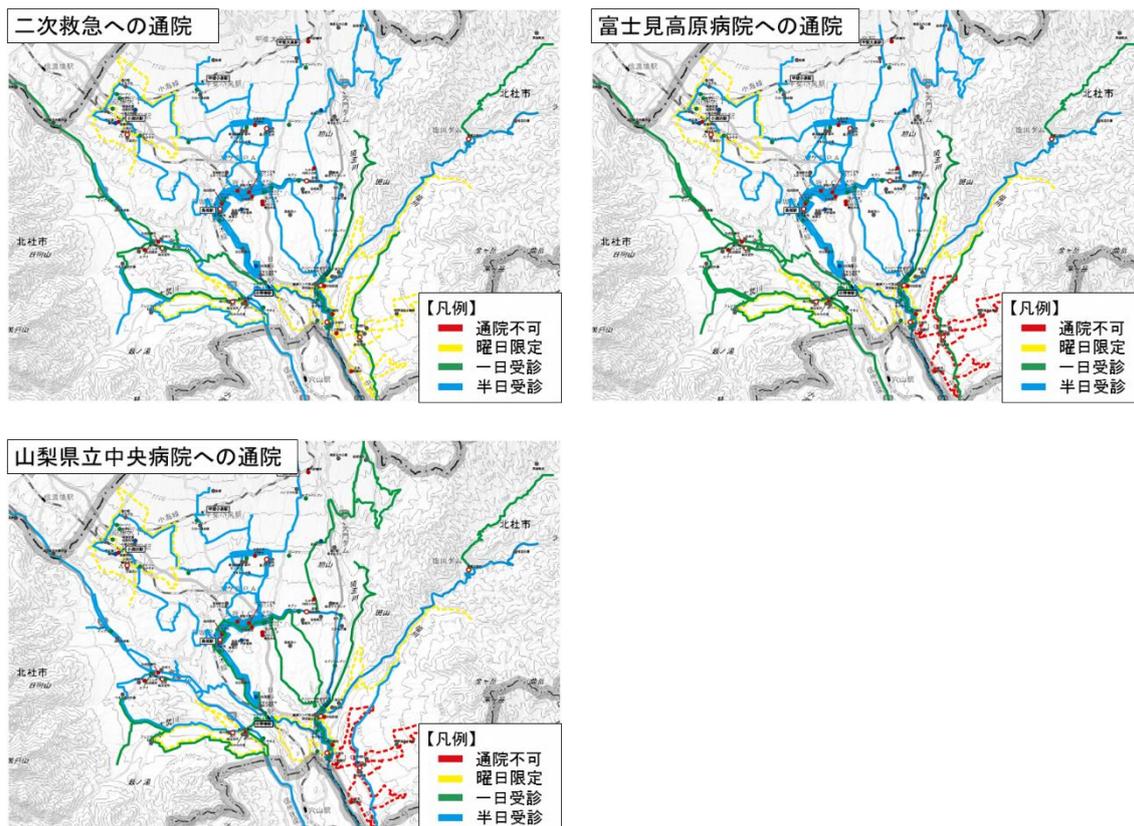
通院のサービスレベルは、目的地として塩川病院・甲陽病院、山梨県立中央病院（甲府市）、韮崎市立病院・韮崎相互病院、富士見高原病院（長野県富士見町）を想定し、A：午前中で受診可能、B：受診に1日掛かる、C：曜日限定で受診可能、D：通院不可で評価する。なお、診療施設での滞在時間を2時間と想定して評価している。

図表 23 通院の評価基準

サービスレベル	判定基準
A: 午前中で受診可能	9:30頃までに来院でき、午前中に帰宅便あり。
B: 受診に1日掛かる	外来診療可能時間に来院、帰宅便あり。
C: 曜日限定で受診可能	曜日限定でBと同様。
D: 通院不可	外来診療時間に来院、帰宅便がない

本市の通院のサービスレベルをみると、塩川病院・甲陽病院、韮崎市立病院・韮崎相互病院へはすべてのエリアで通院可能となっている。山梨県立中央病院、富士見高原病院に関しては、須玉・明野巡回線が運行するエリアを除く地域で通院が可能となっている。

図表 24 通院のサービスレベル



(4) 買物

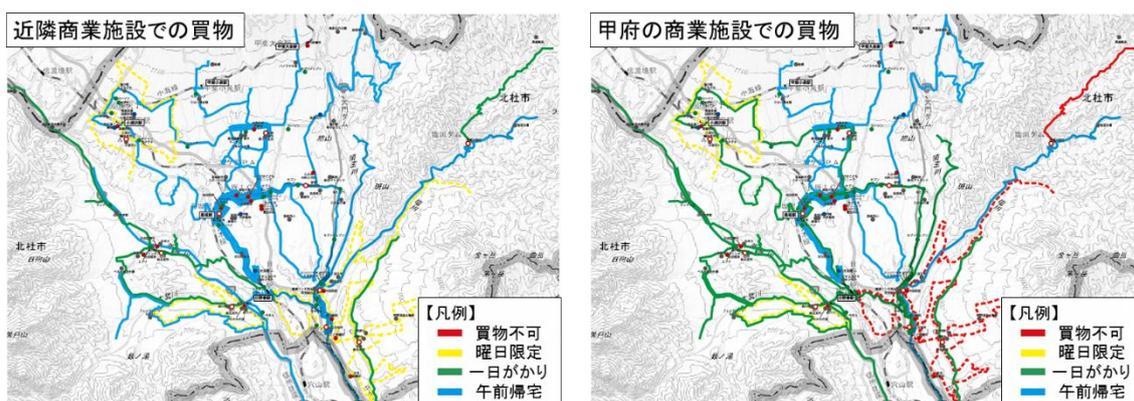
買物のサービスレベルは、目的地として近隣の商業施設（市内及び韮崎駅周辺）と甲府市の商業施設を想定し、A：午前中に帰宅可能、B：買物に1日掛かる、C：曜日限定で買物可能、D：買物不可で評価する。なお、商業施設での滞在時間を1時間と想定して評価している。

図表 25 買物の評価基準

サービスレベル	判定基準
A: 午前中に帰宅可能	午前に出かけ、13:00までに帰宅が可能。
B: 買物に1日掛かる	16:00までに帰宅が可能
C: 曜日限定で買物可能	曜日限定でBと同様。
D: 買物不可	買物をすると帰宅便がない。

本市の買物のサービスレベルをみると、全エリアで近隣の商業施設への買物が可能となっている。甲府市への買物については、多くの路線で可能となっているものの、明野・須玉巡回線と塩川・黒森線では利用できない状況となっている。

図表 26 買物のサービスレベル



※平成 29 年 6 月時点の評価

5. 個別路線の運行状況と利用状況

5-1. 鉄道

(1) 鉄道の運行状況

市内においては、JR 中央本線と JR 小海線の 2 線の鉄道が運行している。

JR 中央本線は、東京駅から市内を通過し、塩尻駅まで通じている。市内には日野春駅・長坂駅・小淵沢駅の 3 駅が設置されている。JR 小海線は、小淵沢駅から市内を通過し、小諸駅まで通じている。市内には、小淵沢駅・甲斐小泉駅・甲斐大泉駅・清里駅の 4 駅が設置されている。

図表 27 JR 中央本線

事業主体	東日本旅客鉄道(株)									
運行主体	同上									
運行状況	【運行日】 通年・毎日運行 【運行回数】 平日 韮崎方面行き：30 便 小淵沢方面行き：29 便 (うち小淵沢止り)：11 便									
経路	【運行区間】 東京—甲府—韮崎— 【北杜市】 —富士見—上諏訪—塩尻 [北杜市周辺] —韮崎—新府—穴山— 日野春 — 長坂 — 小淵沢 —信濃境—富士見—すずらの里— ※太字は市内									
運賃	韮崎駅までの運賃 (円) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>日野春</td> <td>長坂</td> <td>小淵沢</td> </tr> <tr> <td>240</td> <td>320</td> <td>500</td> </tr> </table>	日野春	長坂	小淵沢	240	320	500			
日野春	長坂	小淵沢								
240	320	500								

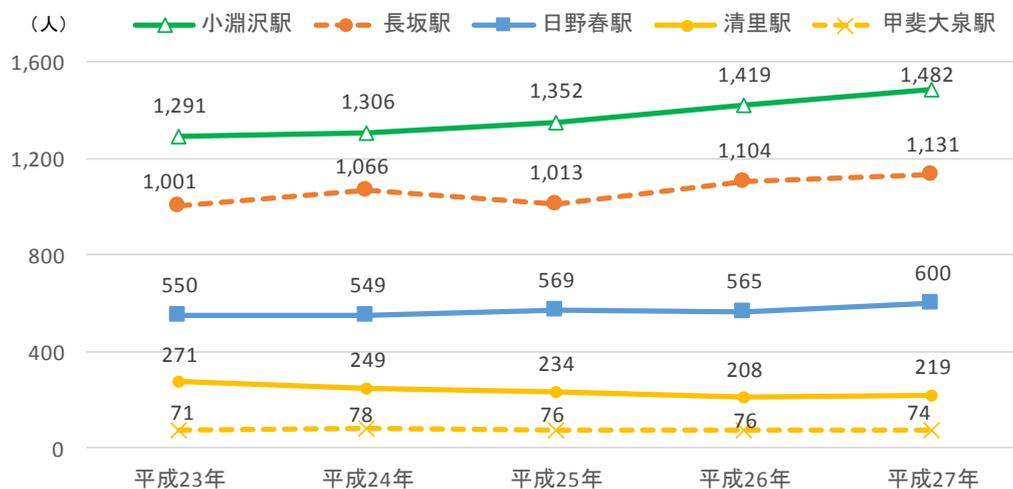
図表 28 JR 小海線

事業主体	東日本旅客鉄道(株)									
運行主体	同上									
運行状況	【運行日】 通年・毎日運行 【運行回数】 平日 小諸方面行き：10 便 小淵沢行き：11 便									
経路	【運行区間】 小淵沢 — 甲斐小泉 — 甲斐大泉 — 清里 —野辺山—佐久平—小諸 ※太字は市内									
運賃	小淵沢駅までの運賃 (円) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>甲斐小泉</td> <td>甲斐大泉</td> <td>清里</td> </tr> <tr> <td>210</td> <td>240</td> <td>320</td> </tr> </table>	甲斐小泉	甲斐大泉	清里	210	240	320			
甲斐小泉	甲斐大泉	清里								
210	240	320								

(2) 鉄道の利用状況（乗車人数）

駅の乗車人員は、小淵沢駅、長坂駅が増加傾向にあり、日野春駅、清里駅、甲斐大泉駅は横ばいとなっている。

図表 29 駅の乗車人員推移



出典：J R 東日本 各駅の乗車人員
※甲斐小泉駅は乗降者数のデータが無いため未記載

5-2. 路線バス

5-2-1. エリア別の運行状況

(1) 八ヶ岳南麓高原エリア

① 路線バスの運行状況

八ヶ岳南麓高原エリアの路線バスは、市民バスが6路線運行している。

図表 30 八ヶ岳南麓高原エリアの路線バスの運行状況

路線名	小泉・長坂線	清里・長坂線	大泉・長坂線	小淵沢巡回線
事業主体	北杜市			
運行根拠	78条 (市町村運営有償運送)			
車輛	ワゴン車	中型バス	中型バス	ワゴン車
運行日	毎日			水土
主なルート (巡回線は主な停留所)	泉郷～甲斐小泉駅～ひまわり市場前～きらんティ～甲陽病院～長坂駅	清里駅～たかねの湯～長坂駅～北杜高校	大開上～甲斐大泉駅～甲陽病院～長坂駅～北杜高校	スパティオ小淵沢、駅前商店街北、小淵沢総合支所前
平日	上り	6便	4便	6便
	下り	5便	5便	4便
休日	上り	4便	3便	4便
	下り	4便	4便	3便

路線名	南部巡回線	北部巡回線
事業主体	北杜市	
運行根拠	78条 (市町村運営有償運送)	
車輛	中型バス	ワゴン車
運行日	毎日	
主なルート	長坂駅～甲陽病院～高根総合支所～塩川病院～北杜市役所～日野春駅～北杜高校	ひまわり市場～スパティオ小淵沢～小淵沢駅～長坂駅～甲陽病院～きらんティ前
平日	上り	8便
	下り	7便
休日	上り	5便
	下り	6便

②路線バスの利用状況

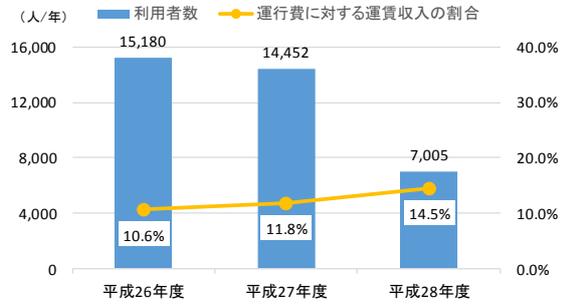
(ア) 小泉・長坂線

平成 28 年度はのべ 7,005 人の利用となっている。平成 27 年度から平成 28 年度での大幅な減少は、スクール混乗を中止したことによる。主な利用目的は買物・通院・通学、利用が多いバス停は長坂駅・きららシティ前・泉郷となっている。

図表 31 路線図

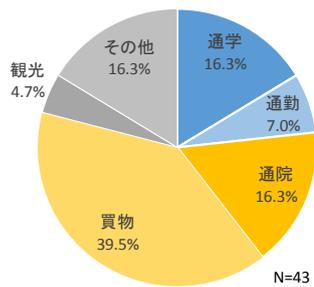


図表 32 利用者数と収支率の推移



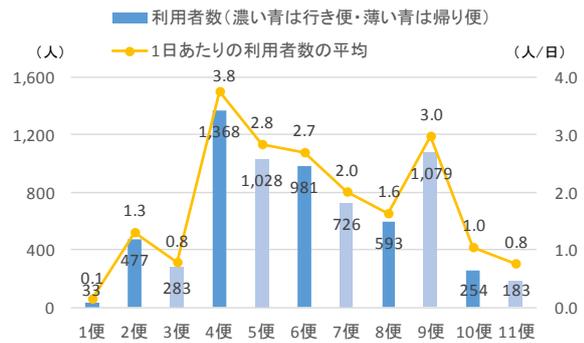
出典：北杜市企画課

図表 33 主な利用目的



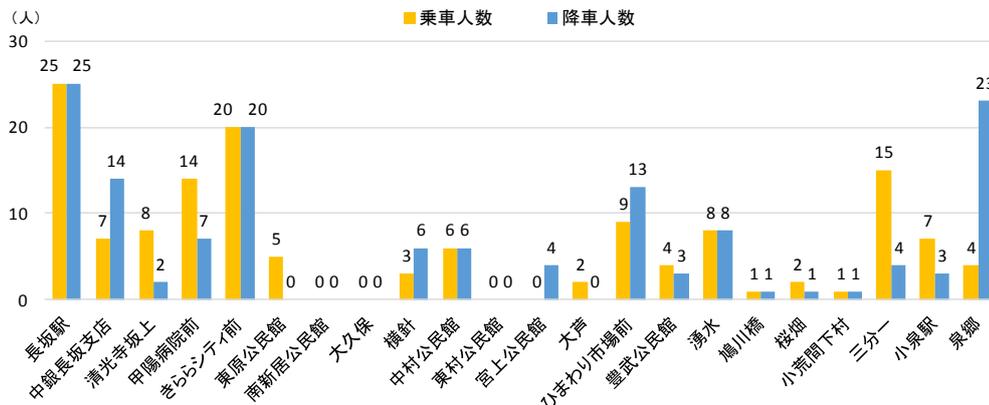
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 34 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 35 バス停別利用者数

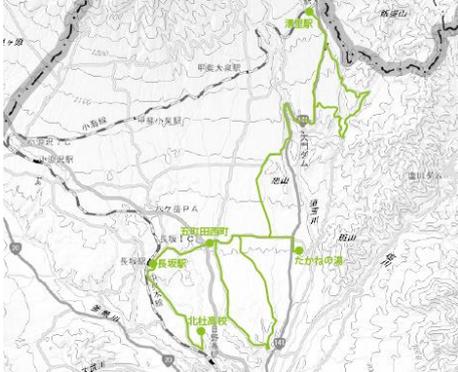


出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

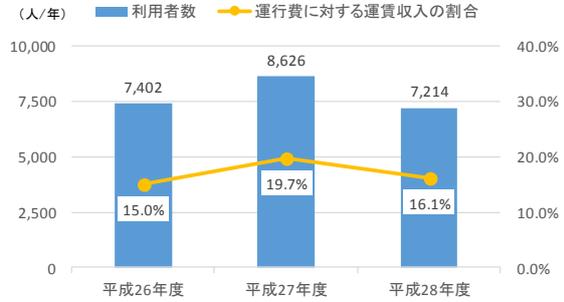
(イ) 清里・長坂線

平成 28 年度はのべ 7,214 人の利用となっている。主な利用目的は通学・通院・買物、利用が多いバス停は長坂駅・北杜高校・五町田西町となっている。

図表 36 路線図

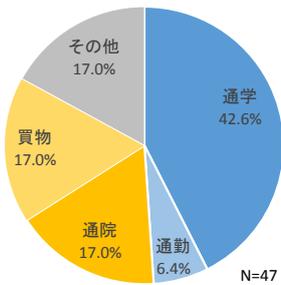


図表 37 利用者数と収支率の推移



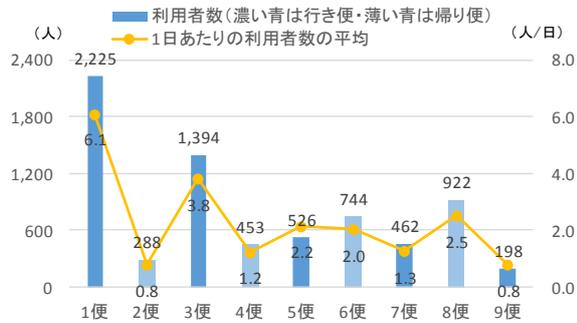
出典：北杜市企画課

図表 38 主な利用目的



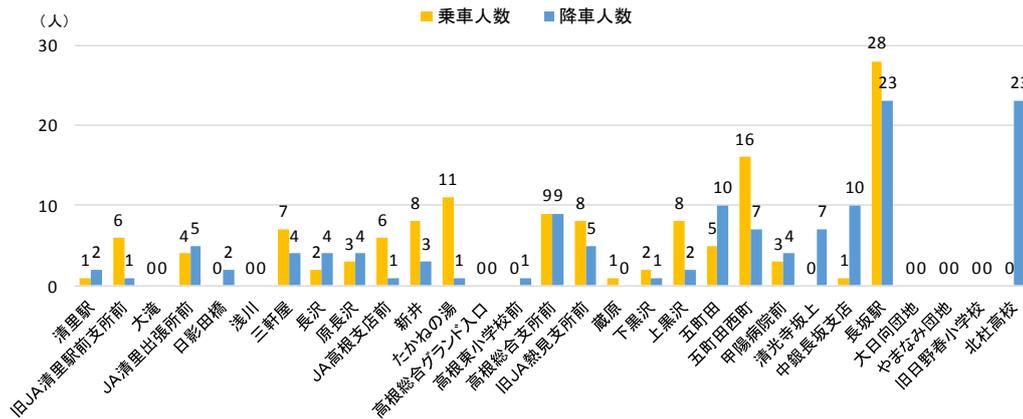
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 39 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 40 バス停別利用者数

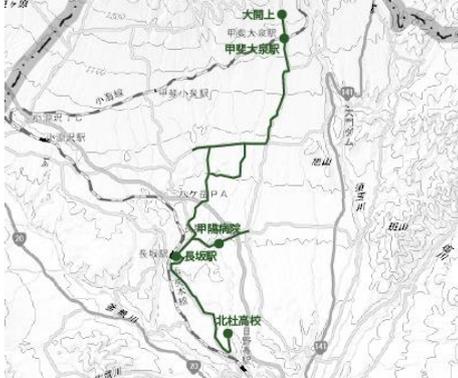


出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

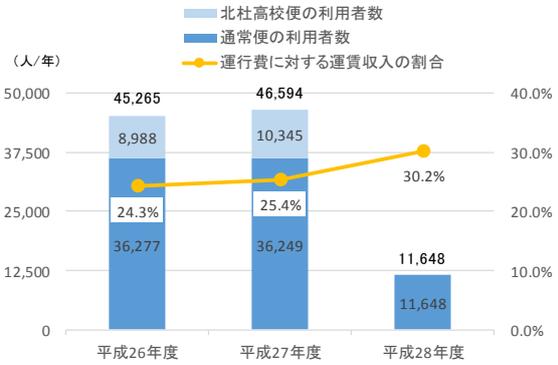
(ウ) 大泉・長坂線

平成 28 年度はのべ 11,648 人の利用となっている。平成 27 年度から平成 28 年度での大幅な減少は、スクール混乗を中止したことによる。主な利用目的は通学、利用が多いバス停は長坂駅・北杜高校となっている。

図表 41 路線図

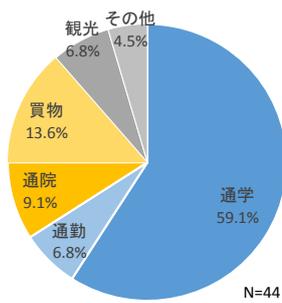


図表 42 利用者数と収支率の推移



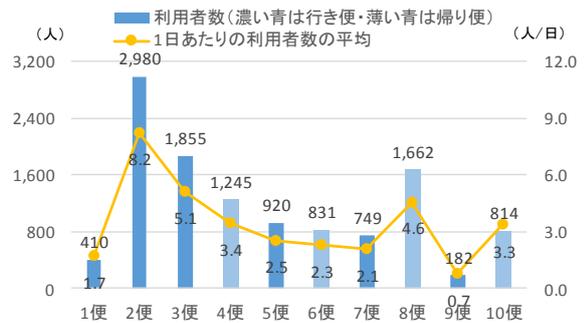
出典：北杜市企画課

図表 43 主な利用目的



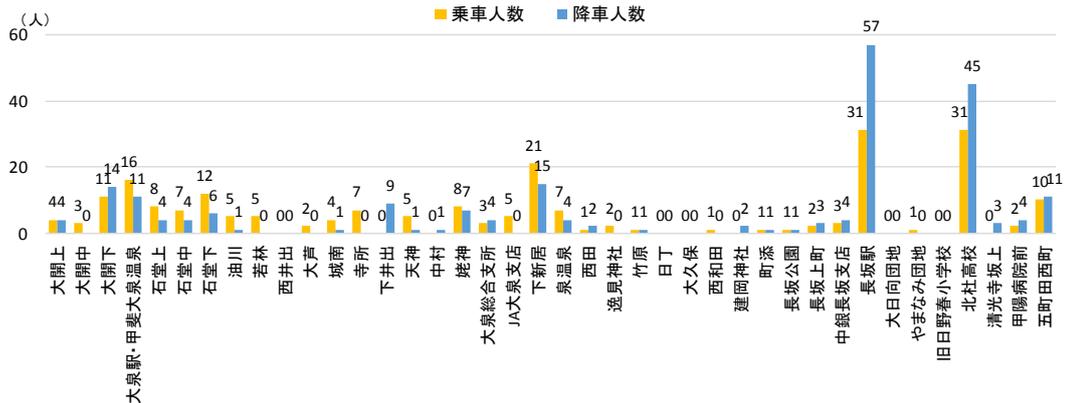
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 44 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 45 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

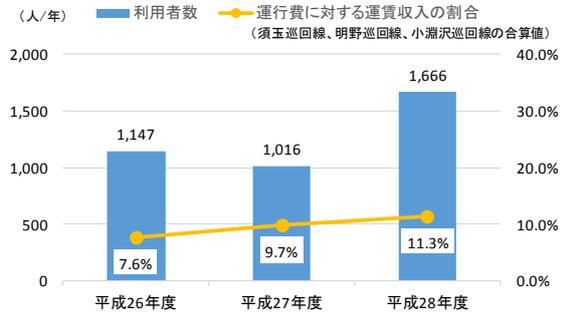
(エ) 小淵沢巡回線

平成 28 年度はのべ 1,666 人の利用となっている。利用が多いバス停はスパティ
オ小淵沢・尾根公民館南となっている。

図表 46 路線図

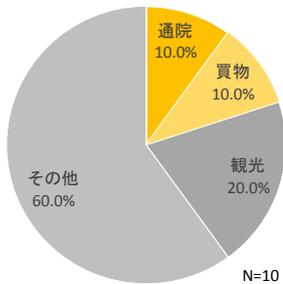


図表 47 利用者数と収支率の推移



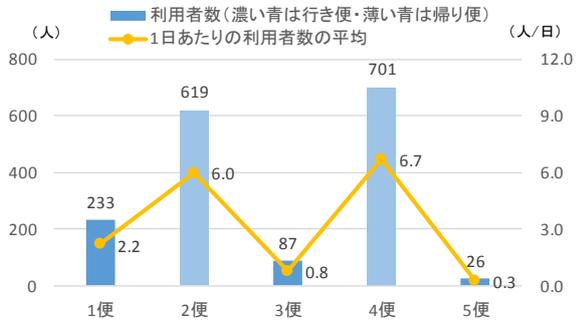
出典：北杜市企画課

図表 48 主な利用目的



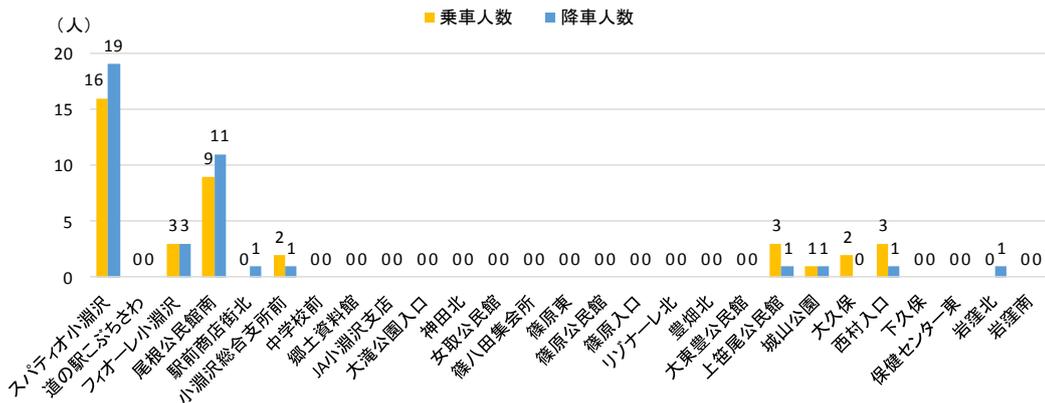
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 49 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 50 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

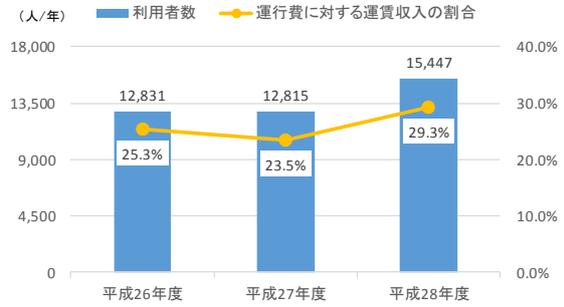
(オ) 南部巡回線

平成 28 年度はのべ 15,447 人の利用となっている。主な利用目的は通学・通院・通勤、利用が多いバス停は北杜高校・百観音・長坂駅となっている。

図表 51 路線図

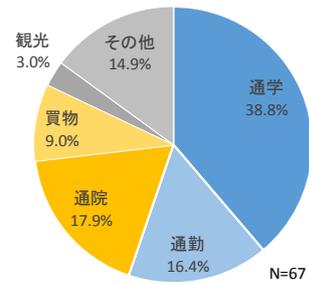


図表 52 利用者数と収支率の推移



出典：北杜市企画課

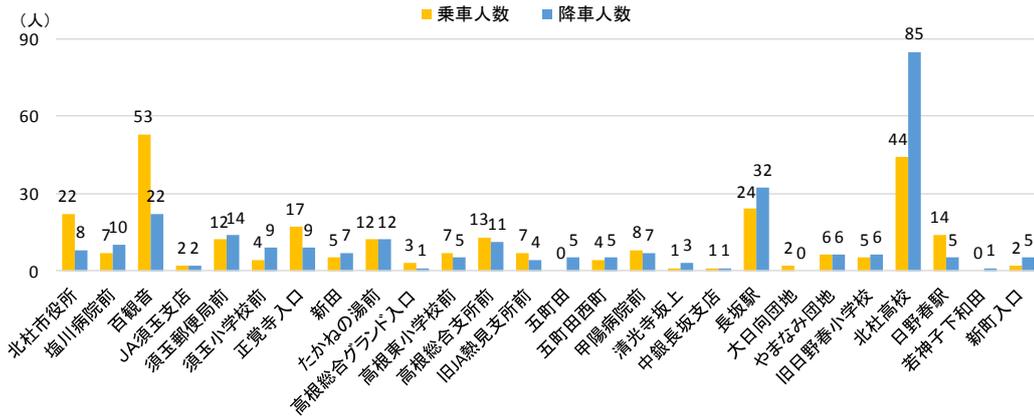
図表 53 主な利用目的



平成 29 年度に再編したため
便ごとの利用者数のデータなし

出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 54 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

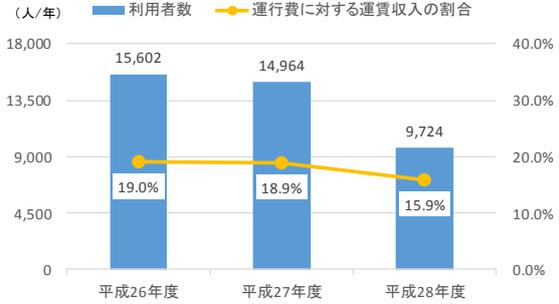
(カ) 北部巡回線

平成 28 年度はのべ 9,724 人の利用となっている。平成 27 年度から平成 28 年度での大幅な減少は、スクール混乗を中止したことによる。主な利用目的は買物・通院、利用が多いバス停は長坂駅・きららシティ前・小淵沢駅となっている。

図表 55 路線図

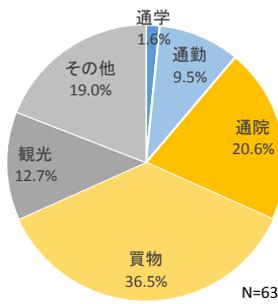


図表 56 利用者数と収支率の推移



出典：北杜市企画課

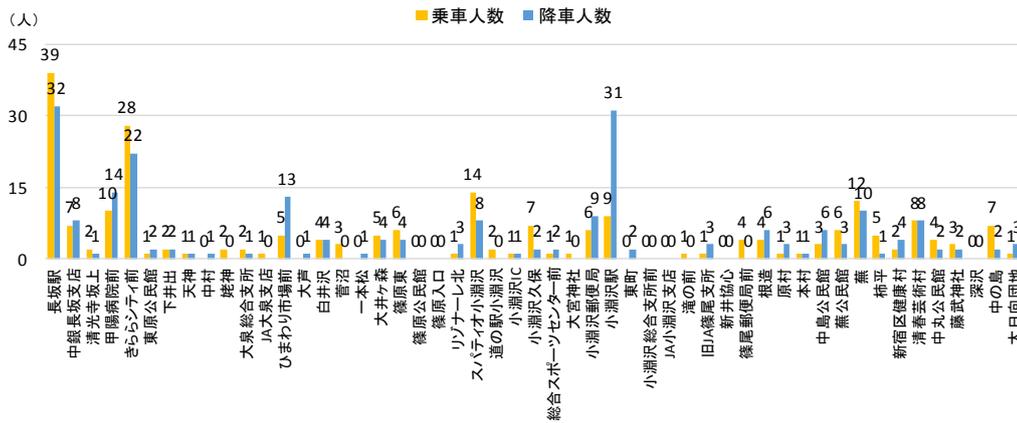
図表 57 主な利用目的



平成 29 年度に再編したため
便ごとの利用者数のデータなし

出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 58 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

(2) 甲斐駒エリア

①路線バスの運行状況

甲斐駒エリアの路線バスは、市民バスが4路線、北杜市・韮崎市の共同運行路線が1路線運行している。

図表 59 甲斐駒エリアの路線バスの運行状況

路線名	横手・日野春線	大坊・白須・大武川線(通常便)	大坊・白須・大武川線(北杜高校便)	武川巡回線
事業主体	北杜市			
運行根拠	4条 (一般乗合旅客運送事業)			
車輛	中型バス	ワゴン車	中型バス	ワゴン車
運行日	毎日	火木土	毎日	月水金
主なルート (巡回線は主な停留所)	西村入口・大坊上～日野春駅	大坊上～白須～大武川	山ロスクールバス停～日野春駅～北杜高校	むかわの湯、武川総合支所、町の駅
平日	上り	6便	3便	6便
	下り	6便	4便	
休日	上り	3便	-	-
	下り	4便	-	-

路線名	韮崎・下教来石線	
事業主体	北杜市・韮崎市	
運行根拠	4条 (一般乗合旅客運送事業)	
車輛	中型バス	
運行日	毎日	
主なルート (巡回線は主な停留所)	下教来石～道の駅はくしゅう～ 韮崎駅	
平日	上り	6便
	下り	7便
休日	上り	6便
	下り	7便

②路線バスの利用状況

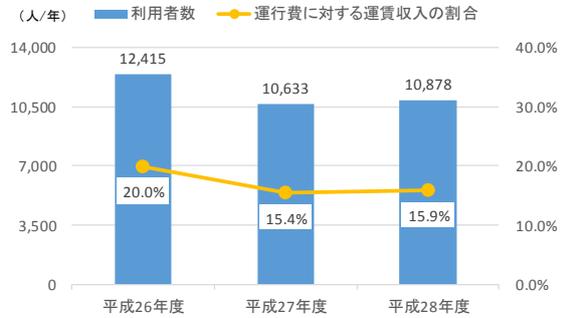
(ア) 横手・日野春線

平成 28 年度はのべ 10,878 人の利用となっている。主な利用目的は通学、利用が多いバス停は日野春駅・北杜高校・牧の原となっている。

図表 60 路線図

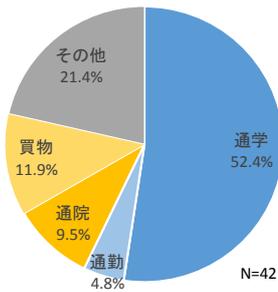


図表 61 利用者数と収支率の推移



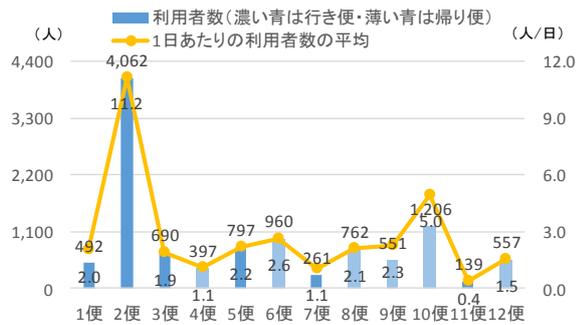
出典：北杜市企画課

図表 62 主な利用目的



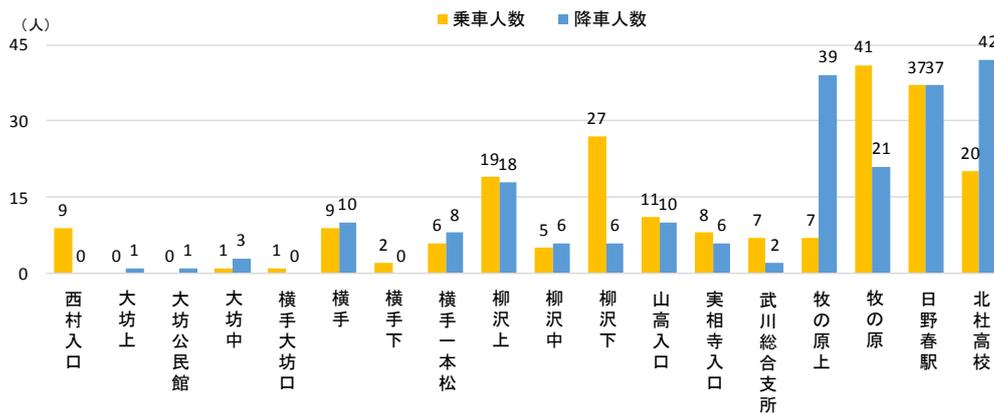
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 63 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 64 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

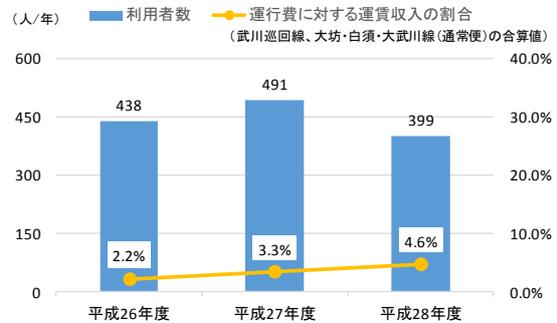
(イ) 大坊・白須・大武川線（通常便）

平成 28 年度はのべ 399 人の利用となっている。利用が多いバス停は道の駅はくしゅう南となっている。

図表 65 路線図



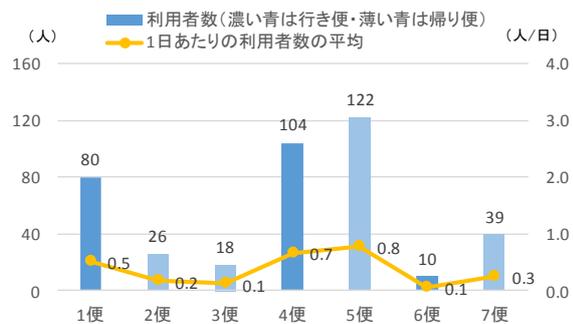
図表 66 利用者数と収支率の推移



出典：北杜市企画課

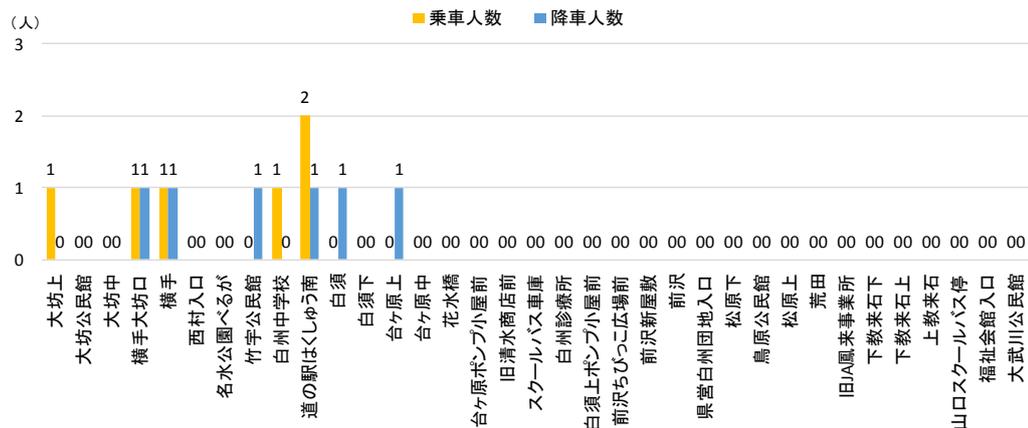
図表 67 便ごとの利用者数

乗込調査未実施のため
主な利用目的のデータなし



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 68 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

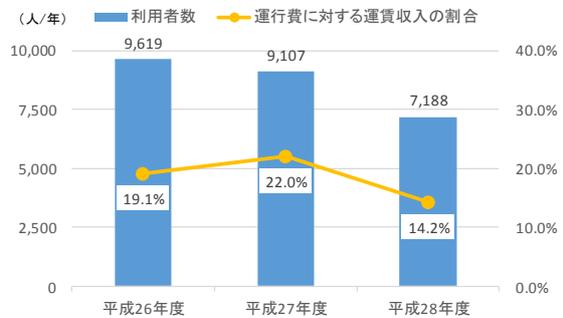
(ウ) 大坊・白須・大武川線（北杜高校便）

平成 28 年度はのべ 7,188 人の利用となっている。平成 27 年度から平成 28 年度での大幅な減少は、スクール混乗を中止したことによる。主な利用目的は通学、利用が多いバス停は北杜高校・日野春駅となっている。

図表 69 路線図

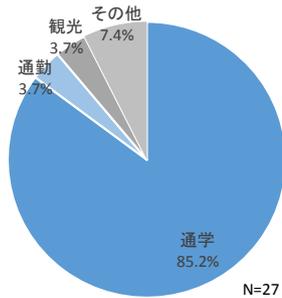


図表 70 利用者数と収支率の推移



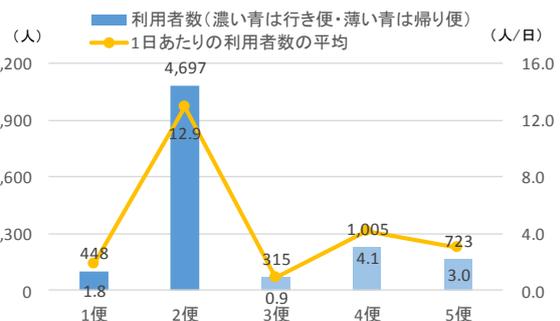
出典：北杜市企画課

図表 71 主な利用目的



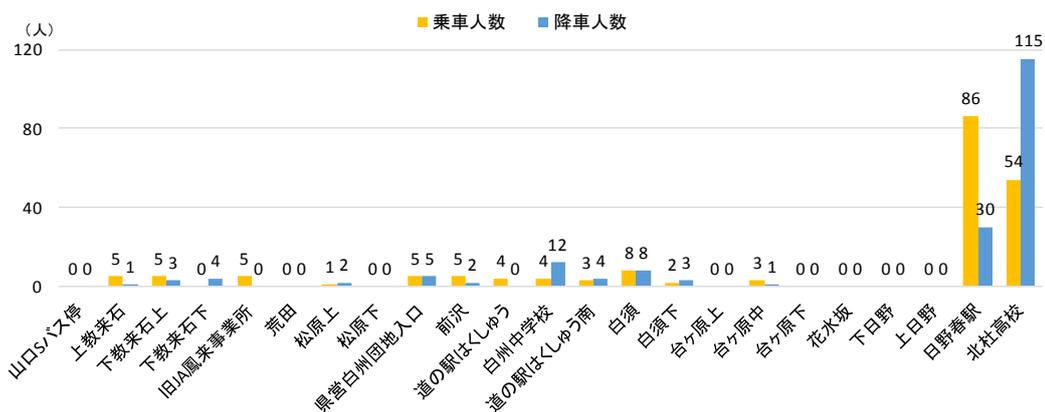
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 72 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

図表 73 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

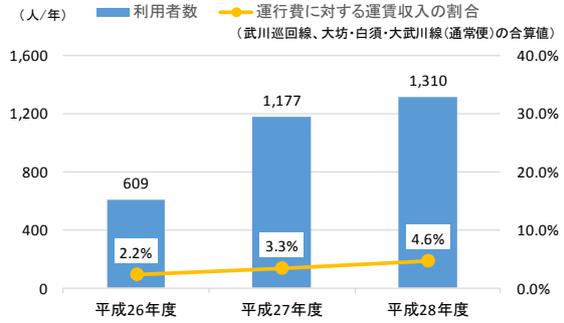
(エ) 武川巡回線

平成28年度はのべ1,310人の利用となっている。利用が多いバス停は町の駅となっている。

図表 74 路線図



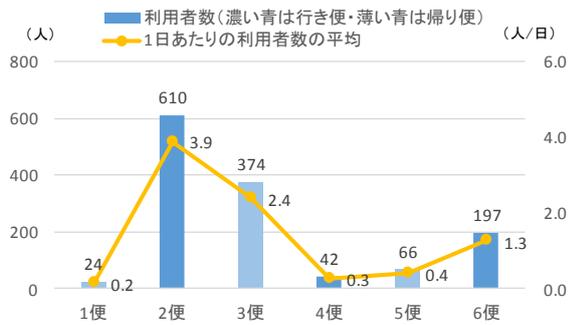
図表 75 利用者数と収支率の推移



出典：北杜市企画課

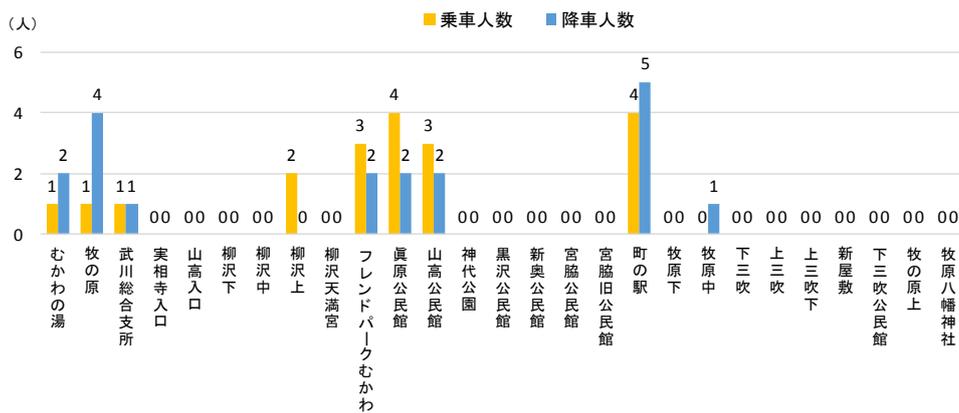
図表 76 便ごとの利用者数

乗込調査未実施のため
主な利用目的のデータなし



出典：平成28年度市民バス月報

図表 77 バス停別利用者数



出典：平成28年度市民バス利用実態調査

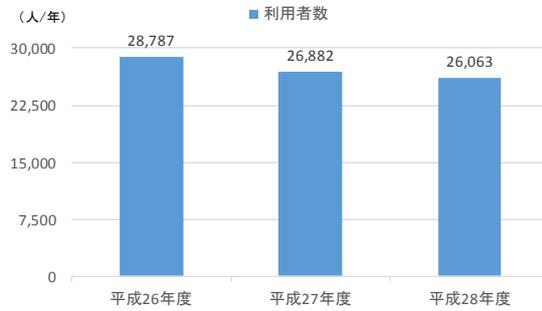
(オ) 葦崎・下教来石線

平成 28 年度はのべ 26,063 人の利用となっている。主な利用目的は通学・通勤・観光となっている。

図表 78 路線図

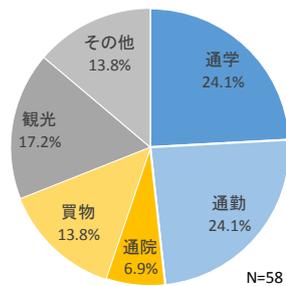


図表 79 利用者数の推移



出典：北杜市企画課

図表 80 主な利用目的



出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

(3) 茅ヶ岳瑞牆エリア

①路線バスの運行状況

茅ヶ岳瑞牆エリアの路線バスは、市民バスが4路線、民間の路線バスが2路線運行している。

図表 81 茅ヶ岳瑞牆エリアの路線バスの運行状況

路線名	塩川・黒森線	津金・百観音線	須玉巡回線	明野巡回線	
事業主体	北杜市 (北杜市地域公共交通会議)				
運行根拠	78条 (市町村運営有償運送)				
車輛	ワゴン車				
運行日	月-土	毎日	火金	月木	
主なルート (巡回線は主な停留所)	塩川～和田～御門～黒森	大和公民館～百観音～塩川病院～北杜市役所	須玉総合支所、健康ランド須玉、塩川病院、北杜市役所	明野総合支所、明野ふるさと太陽間、北杜市役所、塩川病院前	
平日	上り	3便	4便	2便	3便
	下り	2便	4便	2便	
休日	上り	-	2便	-	-
	下り	-	3便	-	-

路線名	韭崎・浅尾・仁田平線	韭崎・増富温泉郷線	
事業主体	山交タウンコーチ(株)		
運行根拠	4条 (一般乗合旅客運送事業)		
車輛	中型バス		
運行日	毎日		
主なルート (巡回線は主な停留所)	仁田平～浅尾～韭崎駅	増富温泉～塩川～百観音～韭崎駅	
平日	上り	6便	9便
	下り	5便	10便
休日	上り	6便	9便
	下り	5便	10便

②路線バスの利用状況

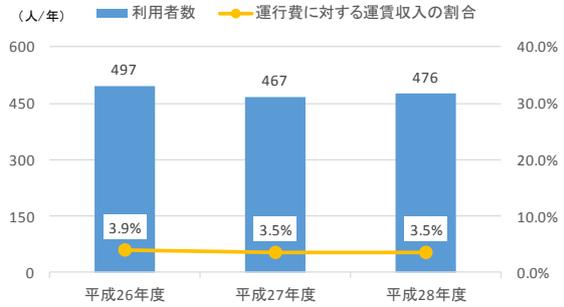
(ア) 塩川・黒森線

平成28年度はのべ476人の利用となっている。利用が多いバス停は塩川となっている。

図表 82 路線図



図表 83 利用者数と収支率の推移

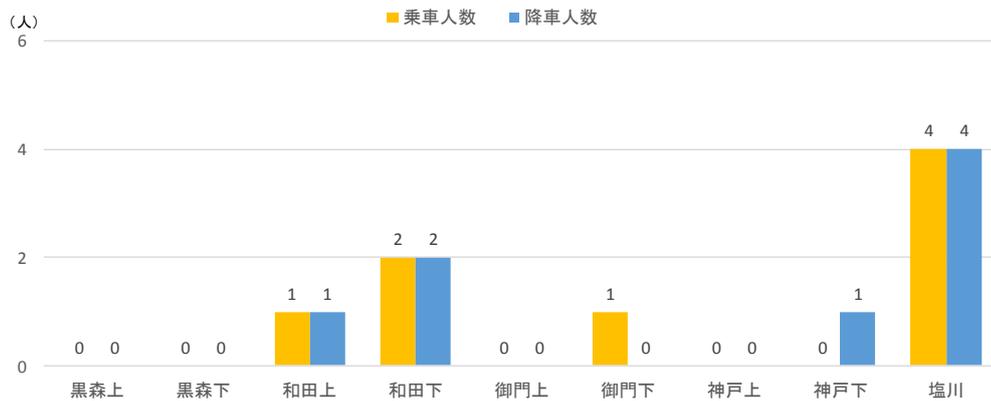


出典：北杜市企画課

乗込調査未実施のため
主な利用目的のデータなし

平成29年度に再編したため
便ごとの利用者数のデータなし

図表 84 バス停別利用者数



出典：平成28年度市民バス利用実態調査

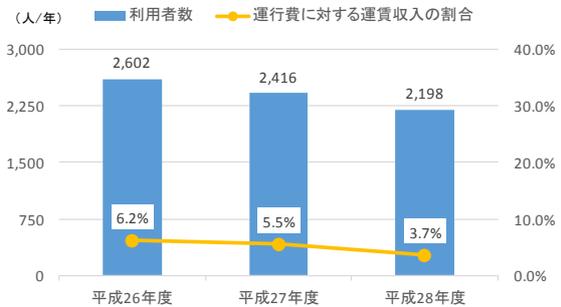
(イ) 津金・百観音線

平成 28 年度はのべ 2,198 人の利用となっている。利用が多いバス停は百観音となっている。

図表 85 路線図

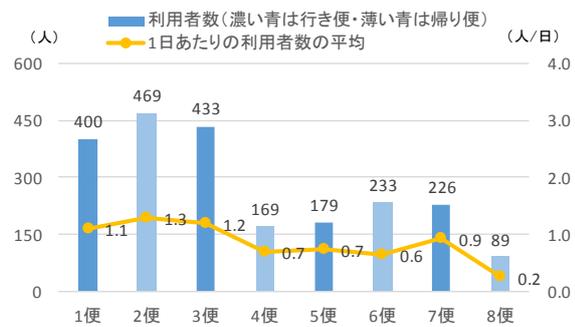


図表 86 利用者数と収支率の推移



出典：北杜市企画課

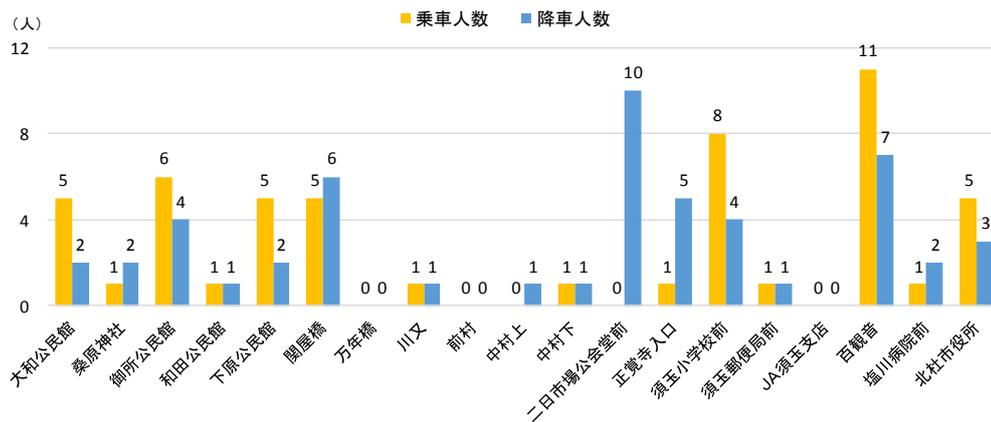
図表 87 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

乗込調査未実施のため
主な利用目的のデータなし

図表 88 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

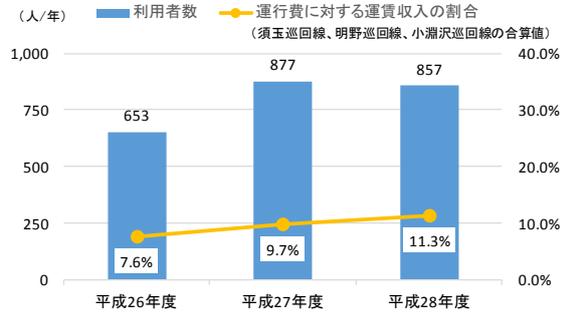
(ウ) 須玉巡回線

平成 28 年度はのべ 857 人の利用となっている。主な利用目的は買物・通院、利用が多いバス停は新町公民館前・塩川病院となっている。

図表 89 路線図

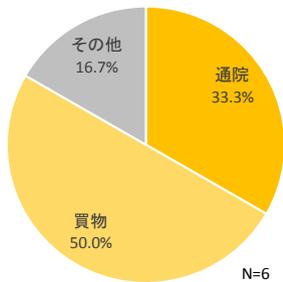


図表 90 利用者数と収支率の推移



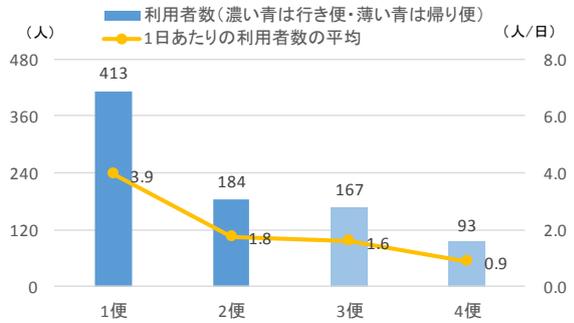
出典：北杜市企画課

図表 91 主な利用目的



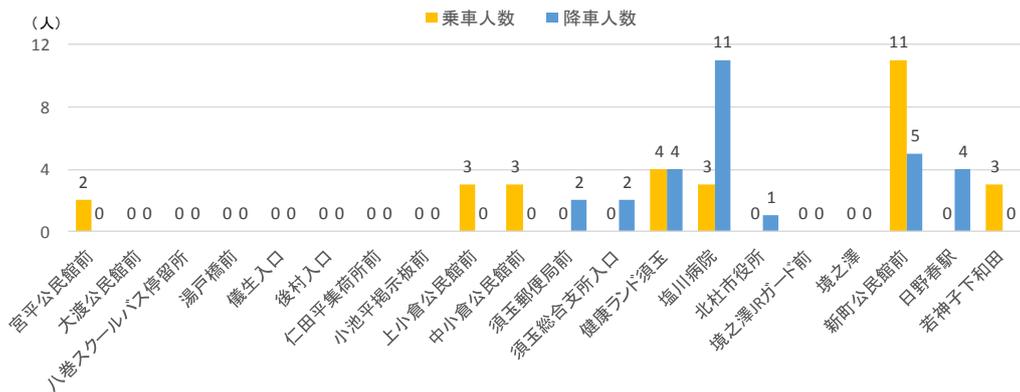
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

図表 92 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バスマ月報

図表 93 バス停別利用者数



出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

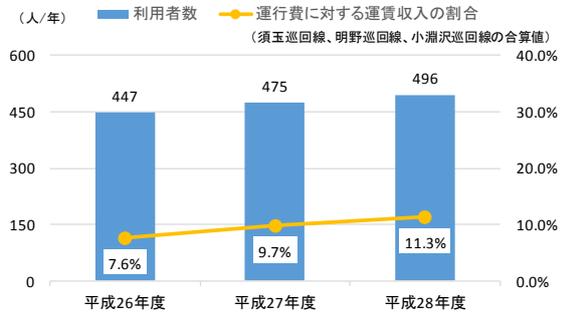
(エ) 明野巡回線

平成 28 年度はのべ 496 人の利用となっている。利用が多いバス停は明野ふるさと太陽館となっている。

図表 94 路線図

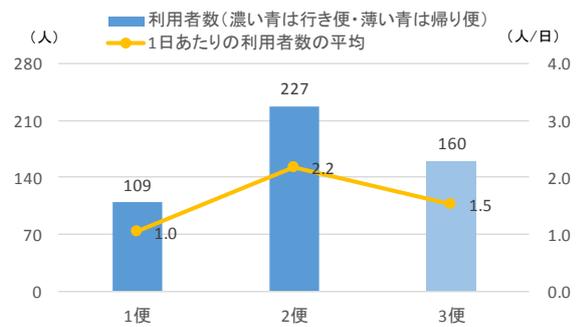


図表 95 利用者数と収支率の推移



出典：北杜市企画課

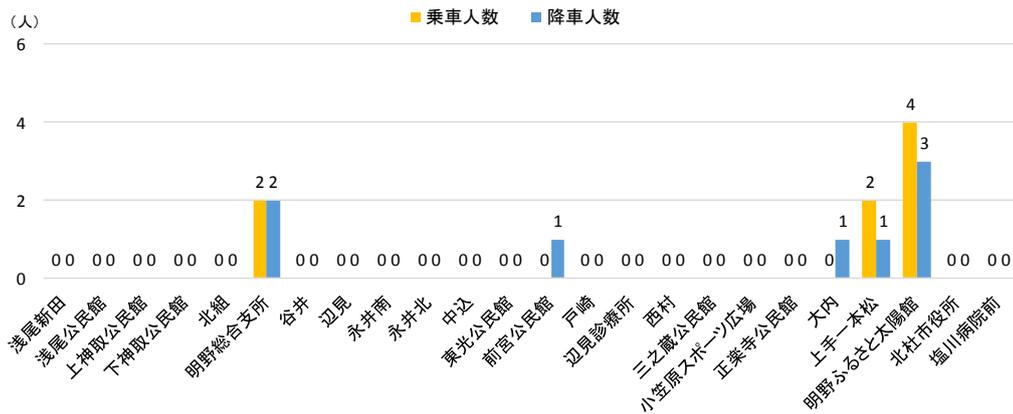
図表 96 便ごとの利用者数



出典：平成 28 年度市民バス月報

乗込調査未実施のため
主な利用目的のデータなし

図表 97 バス停別利用者数

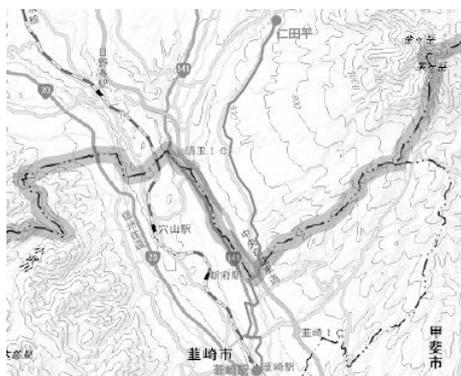


出典：平成 28 年度市民バス利用実態調査

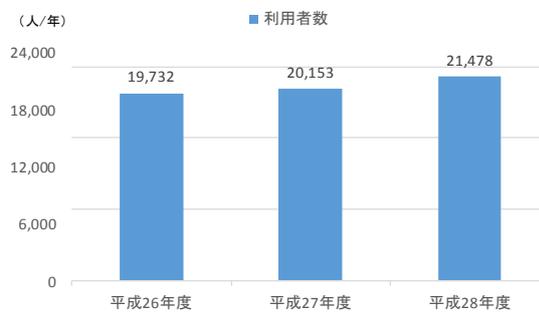
(オ) 葦崎・浅尾・仁田平線

平成 28 年度はのべ 21,478 人の利用となっている。主な利用目的は通学・通勤・買物・その他となっている。

図表 98 路線図

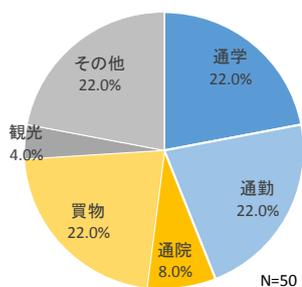


図表 99 利用者数の推移



出典：北杜市企画課

図表 100 主な利用目的

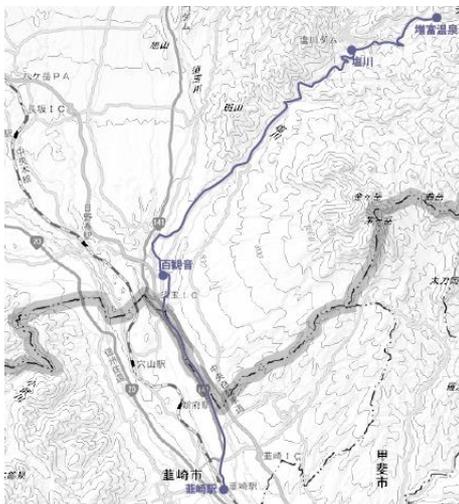


出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

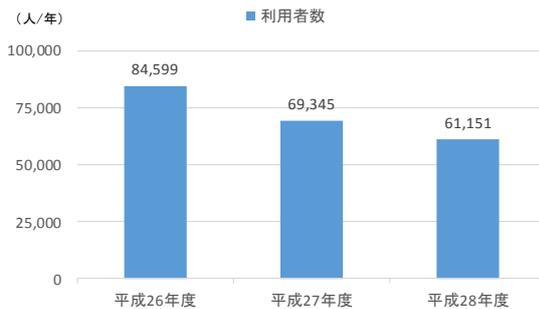
(カ) 葦崎・増富温泉郷線

平成 28 年度はのべ 61,151 人の利用となっている。主な利用目的は通学・通勤・観光となっている。

図表 101 路線図

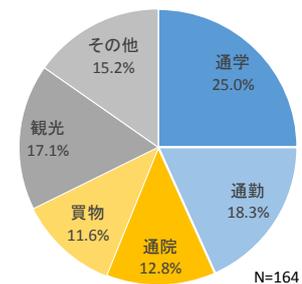


図表 102 利用者数の推移



出典：北杜市企画課

図表 103 主な利用目的



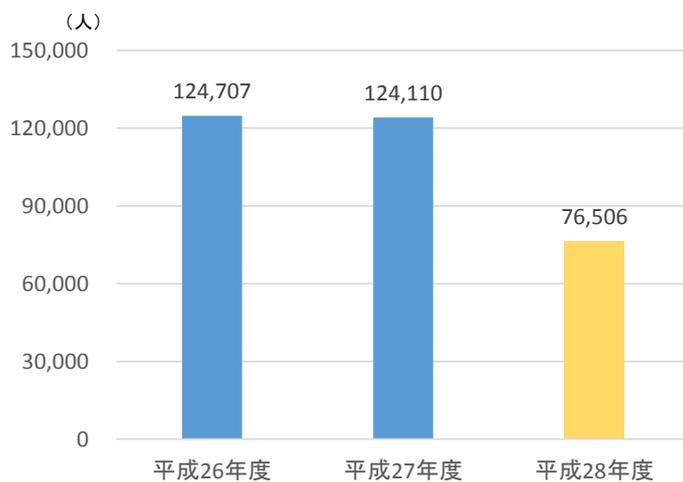
出典：平成 29 年度市民バス乗込調査

5-2-2. 市民バスの運行状況の全体像

(1) 市民バスの利用者数

本市が単独の事業主体として運行している市民バスの利用者数は、平成 28 年度は 76,506 人となっている。また、平成 28 年度に路線の再編やスクールバス混乗解消など大幅な変更があったため、利用者数の推移は大きく変化している。

図表 104 利用者数年間推移



出典：北杜市企画課

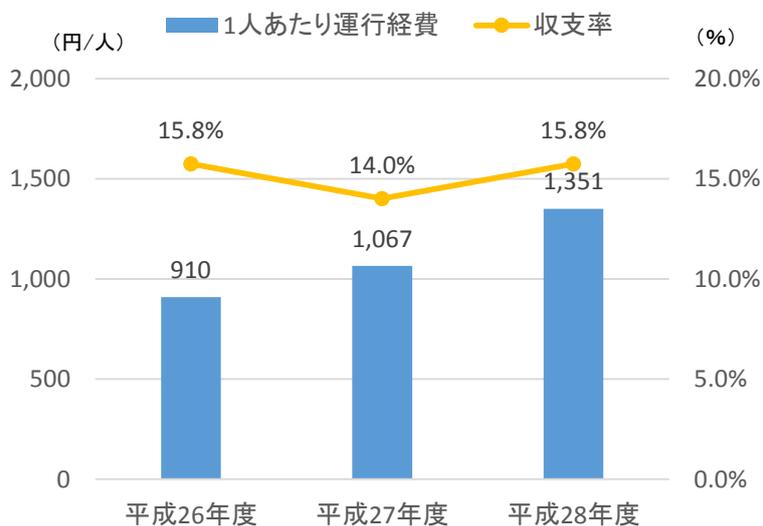
(2) 市民バスの財務状況

市民バスの運行に係る経費は、平成26年度から平成28年度までの3年間で1億円余りの水準で推移している。一方、利用者数は、平成26年度の12万4,707人から7万6,506人に減少している。これは、平成28年度に実施した路線変更で、スクールバス3路線を公共交通利用者から切り離したためと考えられる。

スクールバスを分離したことで市民バス利用者1人あたりの運行経費は910円から1,351円に増加している。

図表 105 市民バスの財務状況

項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用者数	人	124,707	124,110	76,506
運行経費	千円	113,486	132,396	103,381
運賃収入	千円	17,878	18,558	16,283
収支率	%	15.8%	14.0%	15.8%
1人あたり運行経費	円/人	910	1,067	1,351



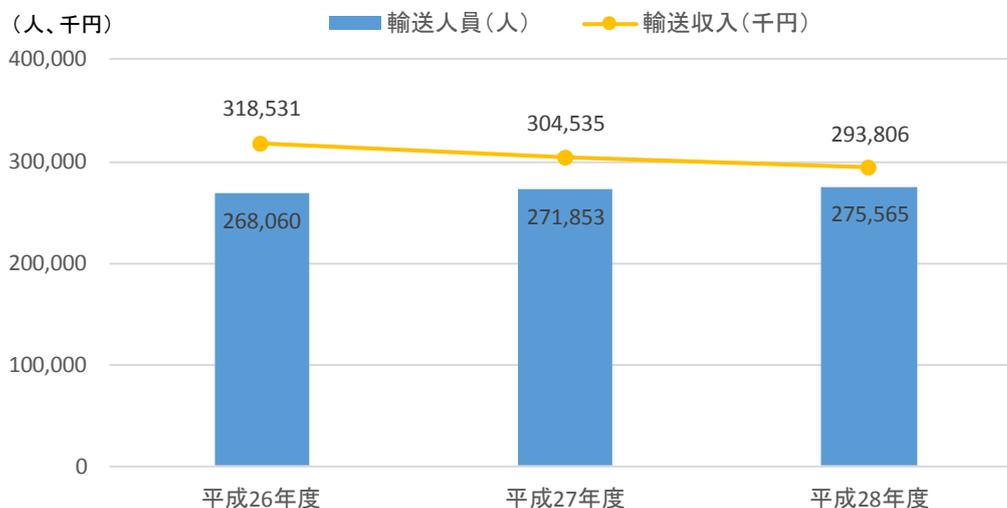
収支率：運賃収入/北杜市市民バス関連予算（各路線運行経費+協議会費用等）で算出しているため、各路線の収支率の合計とは一致しない

出典：北杜市企画課

5-3. タクシー

平成26年度から平成28年度にかけて、北杜市内のタクシーの輸送人員は微増しているが、収入は微減している。

図表 106 北杜市内のタクシーの輸送人員と収入



出典：(社) 山梨県タクシー協会

5-4. その他の路線

(1) 病院送迎バス（施設送迎）

公共交通には含まれない輸送サービスとして、北杜市立塩川病院、甲陽病院では、来院者の送迎サービスを実施している。これらの輸送サービスは、各病院独自の施設送迎サービスであり運賃は徴収していない。

図表 107 市立病院の送迎サービス

病院名	運行方面	運行曜日	運行時刻
塩川病院	1)清里(高根)方面 2)草津~明野線 3)津金線	火 月・水・金 火・木	行き便 8:20~9:25頃に運行 帰り便 行き便の利用者の診療が終わるタイミングで運行
甲陽病院	1)大泉・高根線 2)小淵沢線・長坂線 3)高根線・長坂線		行き便 8:20~11:20頃に1)~3)を運行 帰り便 利用者が外来終了したところで出発

6. 総括

[地理的な特性]

- ① 北杜市は釜無川・須玉川を境界として市域が地勢的に3つに分断されている
- ② 居住可能地が広範囲に分布している
- ③ 複数の生活圏が想定される多核的なまちの構造となっている

[社会動態の特徴]

- ① 高齢化が進んでいる
- ② 居住地が広範囲になっており、人口の増加エリアと減少エリアがモザイク状に点在している
- ③ 市外にも移動需要がある
- ④ 自家用車を基本としたライフスタイルが浸透している

[公共交通の現状からみた課題]

- ① ハヶ岳南麓高原エリアでは人口密度が高い地域でも交通空白が生じている
- ② 市民バスの利用者数が減少し、効率性が悪化している
- ③ ほとんど利用されないバス停・区間がある

これらの課題に対応した公共交通網を整備していくために、以下のような方向性が考えられる。

1. 3つの生活圏に分けた検討が必要

北杜市は、地勢的に3つの地域に分けることができる。また、まちの構造としても、8つの旧町村を基にした、複数の核（生活圏）から構成されていることから、公共交通の検討においても地域に分けた検討が有効である。

2. 自家用車が普及し、公共交通を利用しているのは高齢者、高校生

自家用車の保有台数は増加し、自家用車を中心とした生活スタイルが浸透していると考えられる。自家用車の移動に慣れている市民が、急に公共交通に乗り換えることは考えにくい。現在、公共交通を利用しているのは高齢者及び高校生が中心である。これら、公共交通を必要としている人にターゲットを絞りながら移動を確保していくことが求められる。

3. 地域にあった公共交通体系の再検討が必要

(1) 現行の交通体系に課題がみられる

現在の北杜市の公共交通体系は、人口密度が高いエリアにおいても交通空白が発生している。北杜市は、市域が広く人口が分散しているうえ、人口増加エリアと人口減少エリアがモザイク状に分布しており、移動需要の変化に対応しやすい公共交通が求められる。実

際に、現行の市民バスには、ほとんど利用されないバス停・区間も生じている。一方で、利用者1人あたりのバス運行経費はタクシー並に高くなっている。

以上のような状況から、現行の定時定路線を軸とした公共交通体系をこれ以上充実させることによる課題解決には限界があると推測される。

(2) 再検討において留意すべき点

①利用が集中する市内の目的地への足を確保する

市民バスの利用状況を見ると、日野春駅・長坂駅・小淵沢駅、北杜高校、甲陽病院・塩川病院、きららシティ等の利用が集中する市内の目的地があることがわかる。これらの目的地と生活圏の関係を市民の移動実態のデータから分析し、主要な目的地への足を確保する必要がある。複数の生活圏をまたいだり、移動需要が集中したりする場合は、主要な目的地を結ぶ幹線の役割を持つ便を検討することが必要である。

②市外の目的地への足を確保する

北杜市の生活の移動は、市内での移動だけではなく、市外への通勤・通学移動もみられる。移動需要については、市民アンケート調査において詳細な分析が必要であるが、韮崎市や峡中地域（甲府市・甲斐市）にある高校・病院・商業施設等の目的地への足を確保する必要がある。その際、JR中央本線を上手に活用していくことが求められる。

また、長野県富士見町にも病院等の目的地がある。公共共通による移動の確保の必要性を検討していく必要がある。